14.6ニ
13ハ

大正元年九月二十三日之暴風

（臨時氣象報第十一）

愛知縣測候所

国立国会図書館

始

10-117

14.6.
13.

大正元年十月十九日發行
（氣象報第二百七十四號）

毎月廿五日發行
（明治廿七年九月十二日
第三種郵便物認可）

氣象報臨時增刊第拾壹

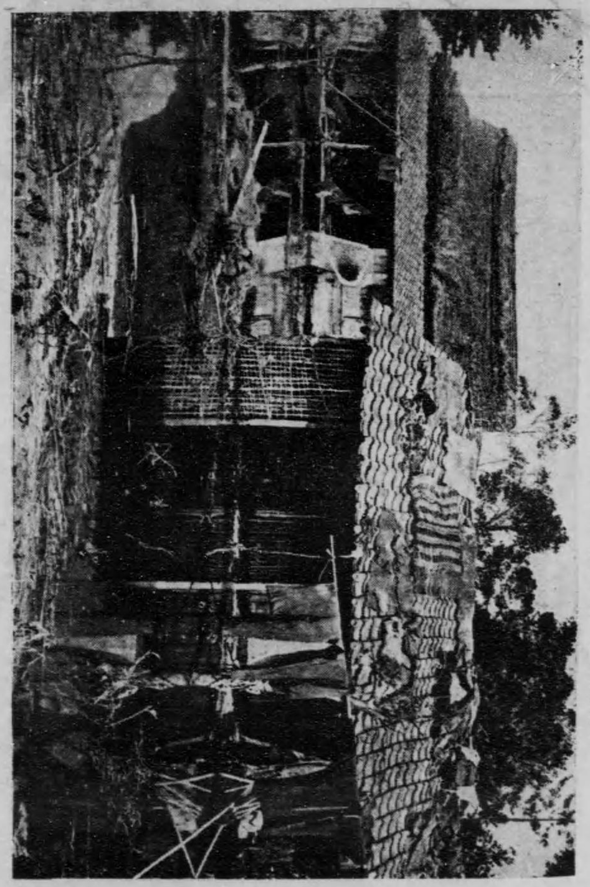
大正元年 九月廿三日之暴風

愛知縣測候所

西春日井郡西枇杷島町名古屋製糖會社工場の倒壞

目次

一暴風進行の概況……一頁
一九月廿二日廿三日各地の最低氣壓、最强風速度及降水量……五頁
一颶風の進行速度……八頁
一名古屋の颶風觀測……九頁
一自九月廿二日至九月廿三日暴風雨氣象觀測表……十三頁
一九月廿二日、廿三日縣下の雨量……十五頁
一九月廿二日廿三日縣下各地河川別及其水源地降水量……十六頁
一各川の出水……廿二頁
一暴風と愛知縣測候所……廿四頁
一颶風の進路經過……廿八頁
一被害概況……卅頁
一災害調査表……卅一頁
一浸水被害……卅五頁
一農作物被害……卅八頁
一暴風雨農作物被害調査表……卅八頁



害水森の西宇町江盤郡東海潰決防堤川光日

○暴風進行の概況

大正元年九月廿二日より廿四日に渉りて本邦全土に多大の被害を與へたる颶風は當測候所創設以來の記錄を破りたる最大强烈なるものにして從て本縣下一般の被害も實に甚大なるものあり

今此の暴風進行の概況を述べんに九月二十日夜琉球南方の海上に颶風顯はれ八重山群島の南方に於て北東に轉向し廿一日朝沖繩島の南方約百二十浬の洋上に來りて其示度七百三十四粍を示せり、此れか爲め九州以南は已でに氣壓著しく下降し沖繩島に於ては風雨强く九州以東關東までは概ね曇天にして四國南部にては北東風强く驟雨を催ほせり而して此の颶風は次第に發達して廿二日朝には奄美大島東方の沖に接近し七百二十八粍に降りて北東に向ひ本邦を衝かんとする形勢を示せしかば本所は既でに前日午前沿海部へ風强かるへき警戒報を發し置きたれ共尙ほ更らに管内沿海部、平原南部、平原北部へ向うて風雨强かるへき警戒報を發せり、此日は早朝より全國一体に雨降り殊に琉球北部にては大雨を豪注し、奄美大島にては午前十時、三十八米の颶風を測れり次いで仝日午后二時颶風は早くも種子島附近に迫り

大正 3. 1. 9
2.
内交

七百二十八粍の深厚なるものとなり更らに仝日午后六時頃日向洋に襲來して七百二十六粍に降り九州南部は風雨强烈を極め將に我本土を斜めに北東に突進せんとし仝夜十時には愈々發達して其示度七百二十粍の懼るへき深度を以て土佐洋に達せり之れより颶風は四國、中國、幾内の仝土を蹂躙し更らに東海、東山、北陸諸道の西部に暴威を振るいて家を倒し、船を顚し、樹木を折り、河川を汎濫せしめ、人畜を殺し、農作物を荒らし尙ほ諸所に小海嘯をさへ起こして人畜建物等を海中に奪い去りたる抔其損害の夥多なる實に慘憺たるものにして到底筆紙の能く名狀すべからざるものあり而して其風勢の最も强烈なりしは土佐國足摺望樓にて觀測したる**四十二米一**なりとす之れに次ぐは當名古屋の四十米三にして津の卅九米二、多度津の卅八米二之れに亞げり又颶風中心通過に際して氣壓の最も低かりし處は日の岬の**七百〇八粍一**にして和歌山の七百十一粍三之れに次げり

已でにして其中心は二十三日午前六時若狹灣に來りて七百二十粍を示し尙ほも北東に急進し能登半島を横斷して日本海に出で佐渡の稍々西方を經て秋田縣八龍湖附近に於て再び上陸し青森の東方を掠め海を涉りて北海道に入り其の南東沿岸を進行して釧路及び根室の西方を駛走し二十四日の午前六時千島南東の沖に去れり

之れが爲め本州中部以東、東北地方幷に北海道に於ても亦多大の風水害を被り建物樹木人畜等に損傷甚しかりしが就中山形縣加茂の風速度**五十米**を測りしが如きは此の邊の如何に風力猛烈なりしかを知り得べし而して佐渡、石卷に於ても其風速度三十九米の颶風吹きたるなり

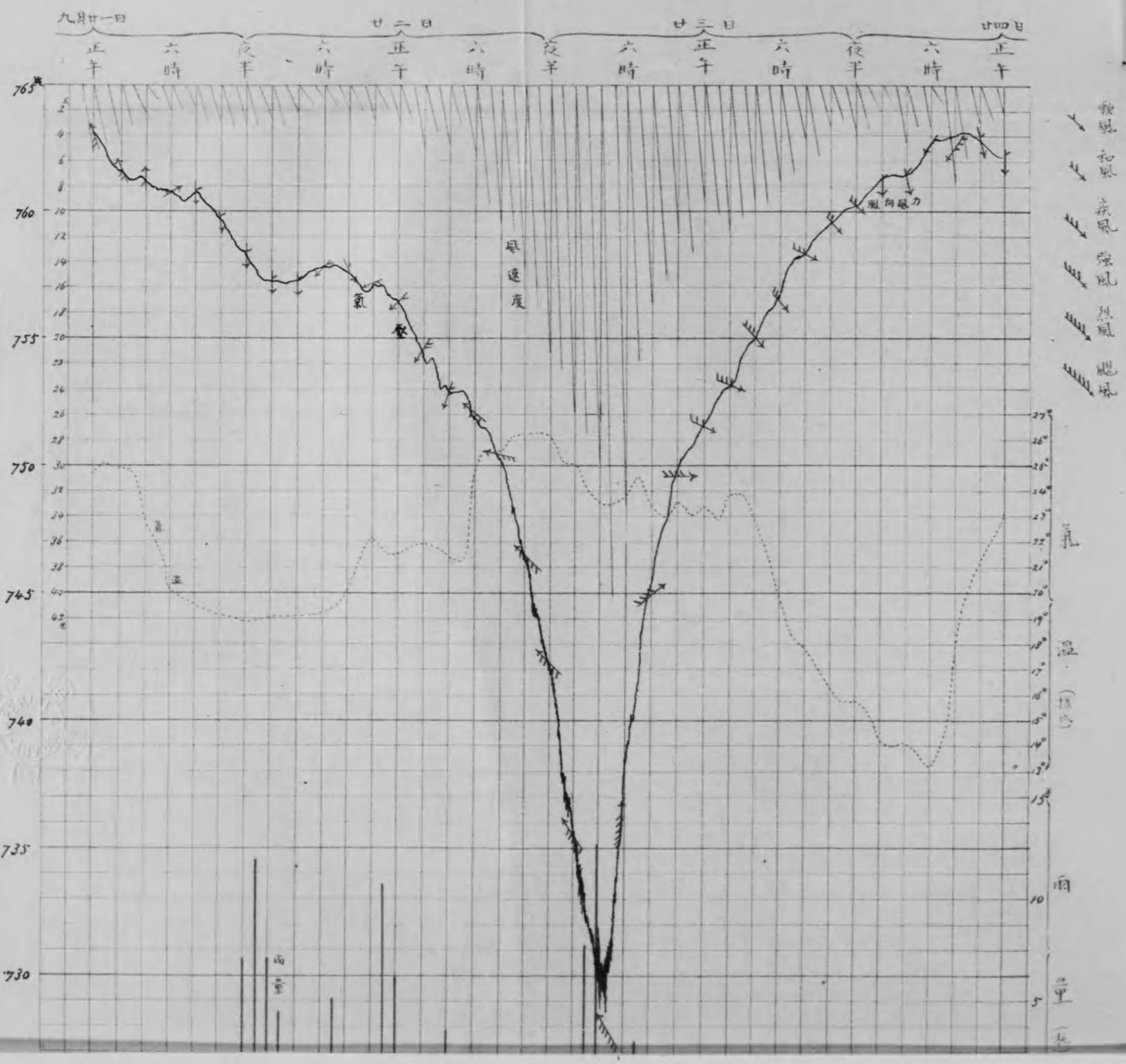
次に全國に於て今回雨量の最も多かりしは九州南部、四國及山陰道西部にして殊に德島の如きは總量**五百十五**粍の甚大なる豪雨を降注し宮崎は二百五十九粍の多量を測れり之れに次ぐは境の二百四十粍、多度津の二百二十二粍にして又東海道に稍々繞多を降らせし處ありしが其の他は割合に少量なりしは不幸中の幸と云ふべし更らに今回の颶風が通過せし途中に於て其氣壓の最も深厚なる示度に沈降せし近畿地方の中心進路に就て試みに別表列記せし各地の最低氣壓、最强風速度及風向幷に中央氣象臺報告の風向順逆轉等より之れを推想せんに先づ仮りに颶心の東方と西方とに各々七百十七粍の線を畫くときは一は四國沖より紀州田邊附近を經て八木の東方に達し京都に向ひ他の一は土佐の奈羽利附近を經て德島の僅かに東方を過ぎ淡路島の東端に達し攝津の西宮附近より京都に向ふ楕圓形の同壓線樣のものありしことを窺ふべし故に颶風の針路は自ら此の領域内に在りて恐らく其中心点

は七〇〇粍位ひの深度に沈下したるものあるを推定するに難からず即ち颶心は室戸岬の南方及東方を北東に進み二十三日午前二時頃日の岬附近にて最低極に下り(此時日の岬は其示度七百〇八粍の最低深度を實現す)稍々北北東に向ひ和歌山の僅かに西端を通りて更らに北東に進み堺、大阪の東方を通過して京都に達したるもの丶如し

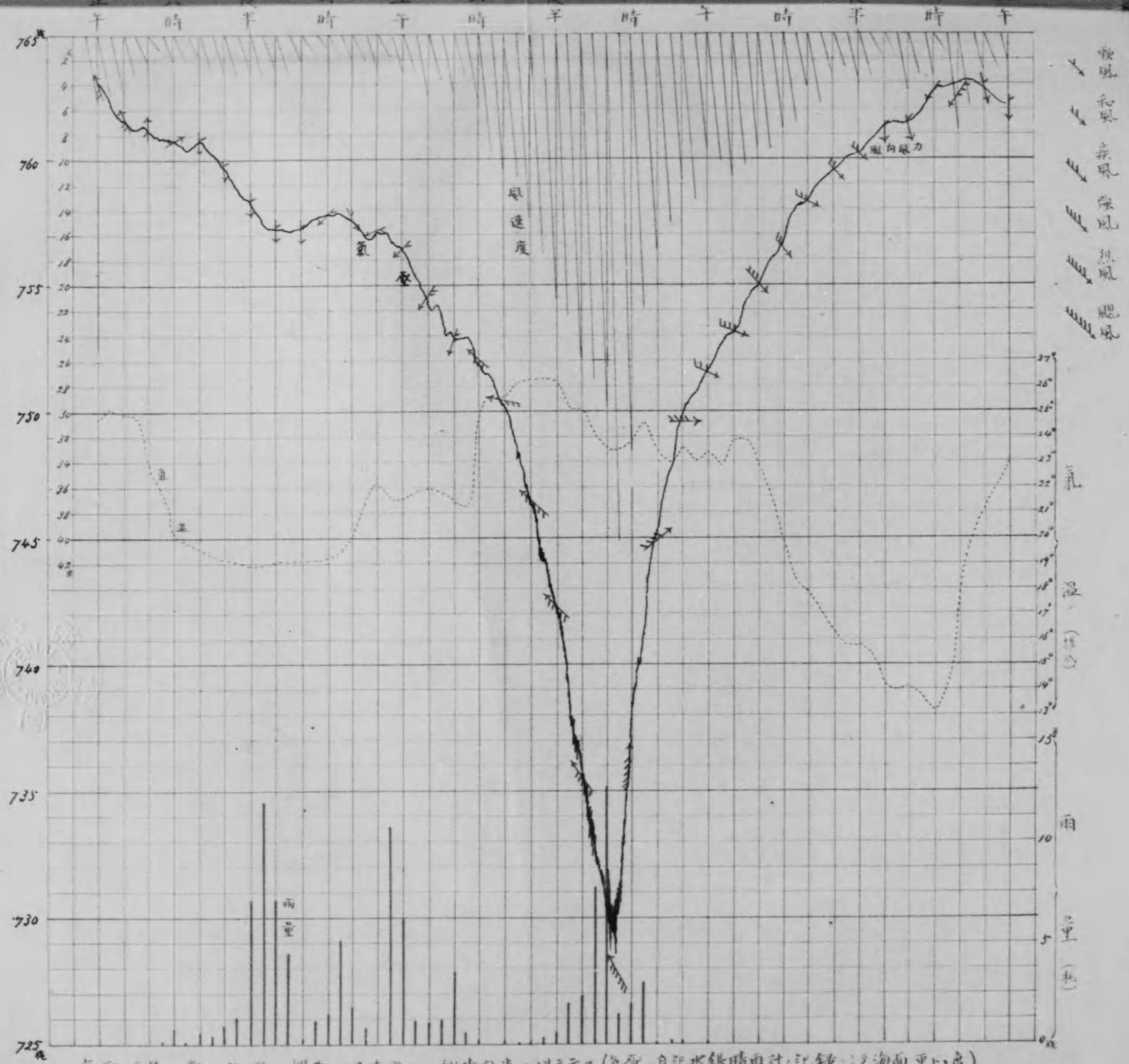
次に颶風の進行速度を概算するに其最も速きは福井より能登を横ぎりて佐渡に至りたる間にして平均一時間に百二十二粁(卅一里)を疾走し之れに次ぐは京都より福井までの平均一時間に百十粁(廿八里)とす而して茲に注目すべきは種子島より日向洋までは四十九粁の速力なりしに日向洋より足摺までは僅かに三十五粁となりしこと丶、今一つは佐渡より青森までの間(尚ほ仔細に言へば佐渡より秋田縣の海岸までの)の速度比較的遲きことなり之れ颶心の將に上陸せんとする前方に高地を控へて其進路を遲からしめ又は變向せしむるに原づくものと見做すことを得べきか

左に各地の今回觀測したる最低氣壓、最強風速度並に降水量を表載し又颶心進行速度の概算表を載す

大正元年九月廿二日、廿三日ノ暴風雨ト名古屋ニ於ケル氣象変化圖



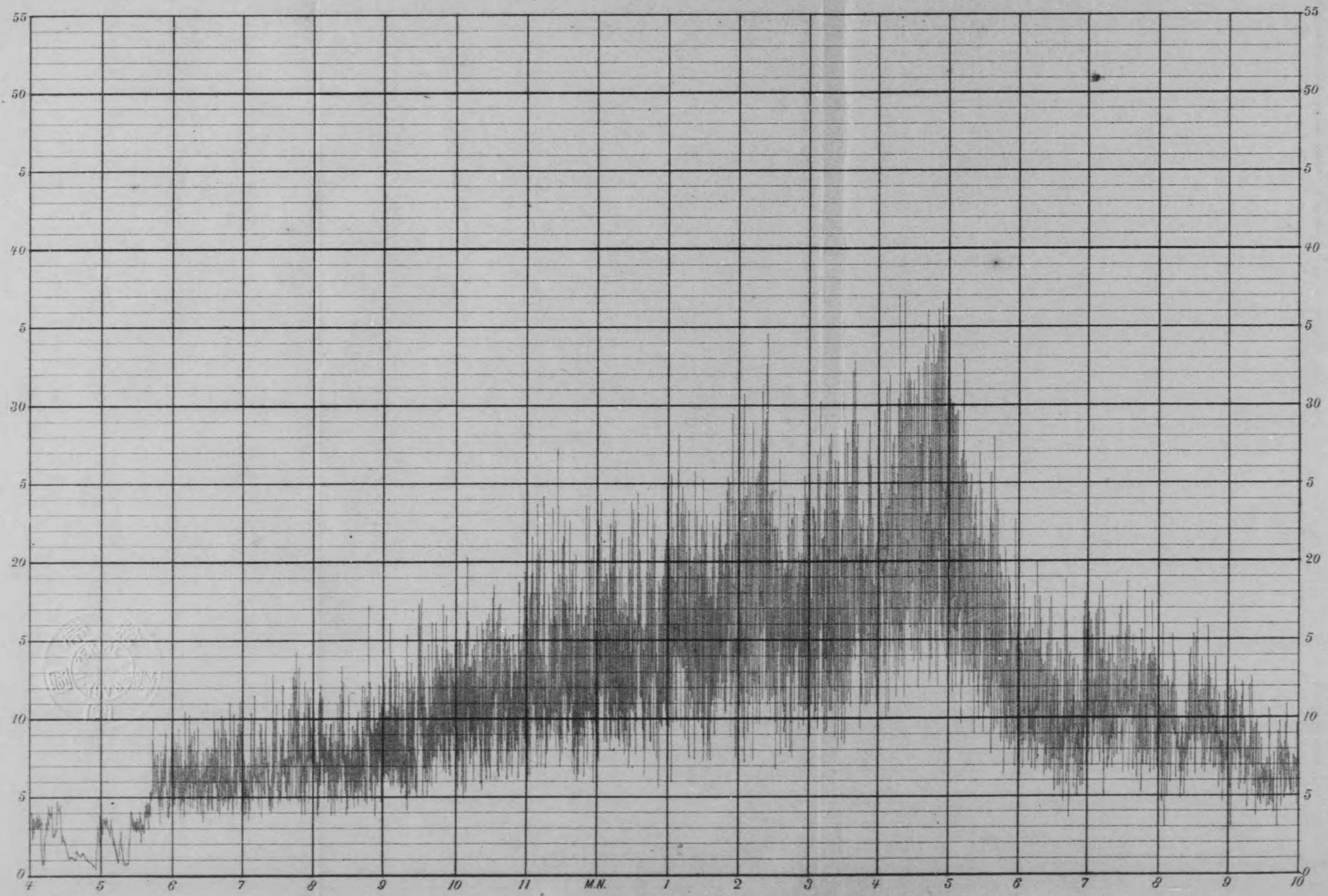
次に颶風の進行速度を概算するに其最も速きは福井より能登を横ぎりて佐渡にわたる間にして平均一時間に百二十二粁(卅一里)を疾走し之れに次ぐは京都より福井までの平均一時間に百十粁(廿八里)とす而して茲に注目すべきは種子島より日向洋までは四十九粁の速力なりしに日向洋より足摺までは僅かに三十五粁となりしこと、今一つは佐渡より青森までの間(尙ほ仔細に言へば佐渡より秋田縣の海岸)での速度比較的遲きことなり之れ颶心の將に上陸せんとする前方に高地を控へ其進路を遲からしめ又は變向せしむるに原づくものと見做すことを得べきか左に各地の今回觀測したる最低氣壓、最強風速度並に降水量を表載し又颶心進行速度の概算表を載す



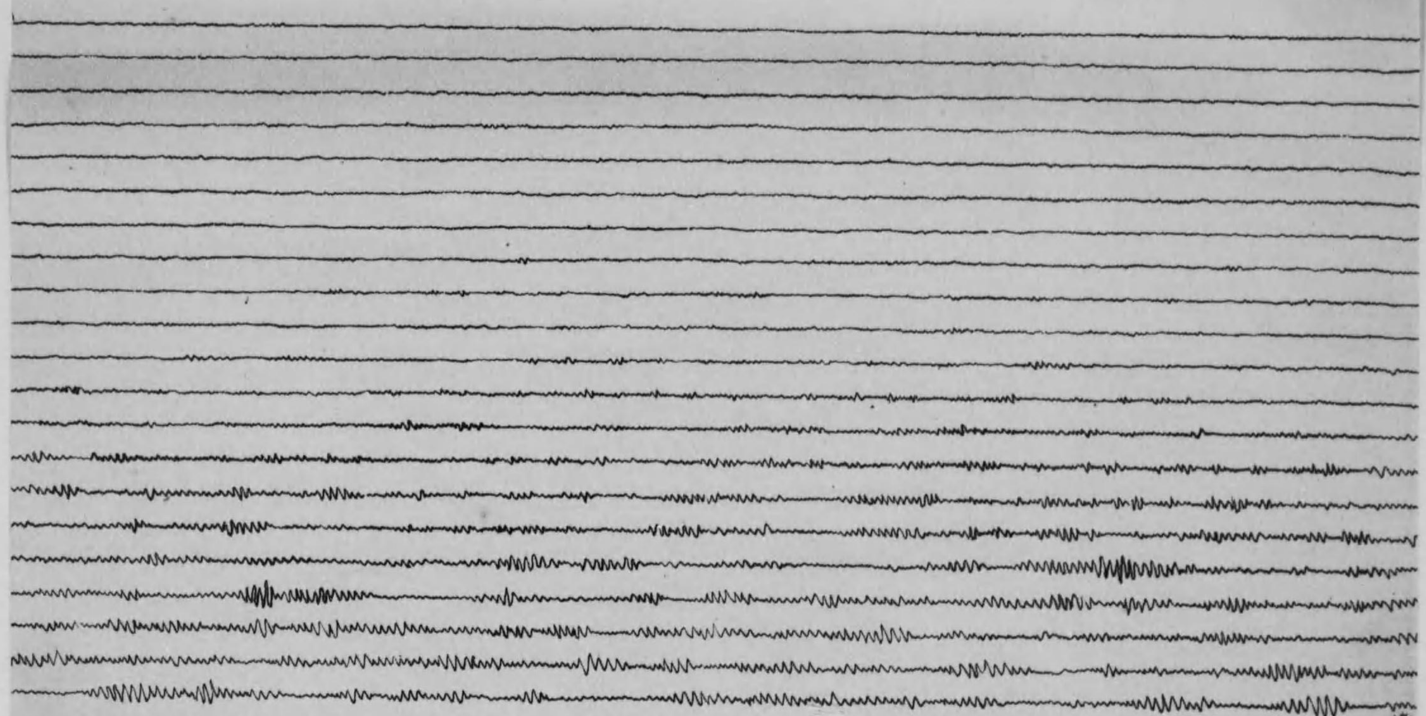
次に颶風の進行速度を概算するに其最も速きは福井より能登を横ぎりて佐渡に至りたる間にして平均一時間に百二十二粁（卅一里）を疾走し之れに次ぐは京都より福井までの平均一時間に百十粁（廿八里）とす而して茲に注目すべきは種子島より日向洋までは四十九粁の速力なりしに日向洋より足摺までは僅かに三十五粁となりしこと、今一つは佐渡より青森までの間（尚ほ仔細に言へば佐渡より秋田縣の海岸まで）の速度比較的遲きことなり之れ颶心の將に上陸せんとする前方に高地を控へて其進路を遲からしめ又は變向せしむるに原づくものと見做すことを得べきか

左に各地の今回觀測したる最低氣壓、最強風速度並に降水量を表載し又颶心進行速度の概算表を載す

大正元年九月廿二日、廿三日名古屋ニ於ケルダインス式自記風力計記録(一秒時間米)



大正元年九月廿二日、廿三日ノ颶風前後名古屋ニ於ケル微動計記録



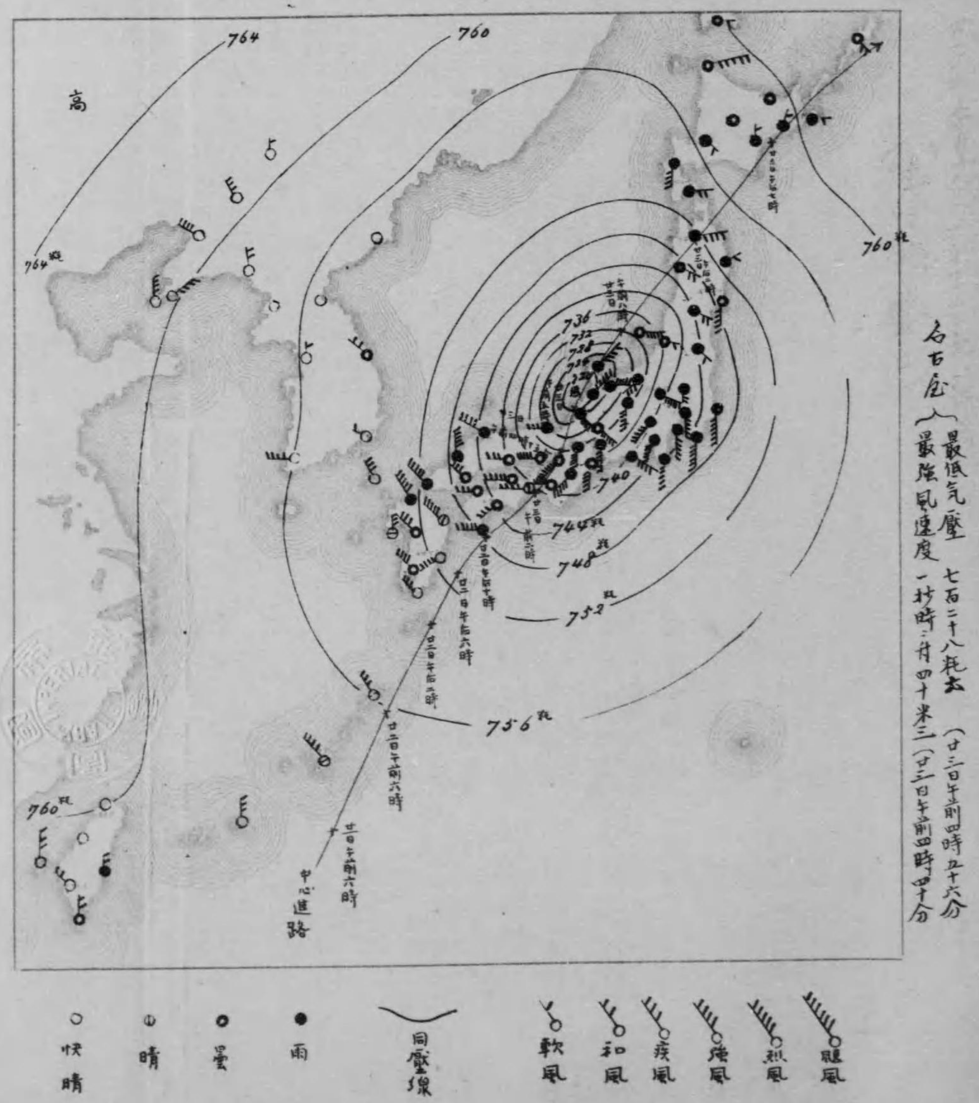
此図ハ脈動ノ一部ヲ示シタルモノニシテ颶風中心ノ移動ニ随伴シテ起ル波浪ノ勢力ニ依リ地ノ脈動ヲ遠ク海底ヨリ傳ヘ記録シタルモノナリ

中心進路及天気図

（於ケル全国天気実況）

大正元年九月廿三日暴風中心進路及天気図

（此図ハ九月廿三日午前六時ニ於ケル全国天気実況ヲ示スモノナリ）



○九月廿二日廿三日各地之最低氣壓、最強風速度及降水量

地名	最低氣壓（海面更正度）	其日時刻	最強ノ風速度及其方向		一間平方面ニ働スル風壓	其日時刻	降水量
名瀬	七三三、四 粍	廿二日 午前 七時二十分	北	三八、一 米	一五三 瓩	廿二日 午前 十時二十分	二一二、三 粍
佐多岬	七二八、四	廿二日 午后 五時	北西	二八、九	八八	廿二日 午后 六時	一四六、〇
鹿兒島	七三五、六	廿二日 午后 六時	北北西	二六、八	七七	廿二日 午后 六時	一一二、八
宮崎	七三三、三	廿二日 午后 六時	北	二三、〇	五六	廿二日 午后 四時	二五八、八
熊本	七四一、一	廿二日 午后 十時二十分	北北西	一六、八	三一	廿二日 午后十一時三十分	四八、五
長崎	七四二、一	廿二日 午后 十一時十分	北北東	二五、七	七一	廿二日 午后 九時三十分	四、一
大分	七三八、一	廿三日 午前 八時四十分	北北東	一九、七	四二	廿二日 午后 八時二十分	二一九、八
佐賀	七四一、九	廿二日 午后 〇時	北北東	二一、七	五一	廿二日 午后 九時	三、〇
福岡	七四四、二	廿二日 午后 八時三十分	北北西	二八、一	八三	廿三日 午前 一時二十分	一四、二
松山	七三四、〇	廿三日 午前 〇時二十分	北	一九、六	四二	廿三日 午前 一時三十分	一九七、〇
山口	七四二、三	廿二日 夜 半	北西	二一、七	五一	廿三日 午前 四時	五一、〇
廣島	七三五、九	廿三日 午前 一時四十分	北北東	二四、二	六一	廿二日 午后十一時四十分	九六、九
岡山	七二八、一	廿三日 午前 三時	北西	二〇、七	四七	廿三日 午前 四時	一四六、七
境	七三八、〇	廿三日 午前 三時	東	二〇、二	四二	廿三日 午前 一時	二三九、六
足摺	七二二、一	廿二日 午后 十一時	北東	四二、一	二一	廿二日 午后 十時	一八二、〇

地名	最低氣壓（海面更正度）	其日時刻	最強ノ風速及其方向	一間平方面ニ對スル風壓	其日時刻	降水量
高知	七二三、二	廿三日 午前一時	北西 二二、〇米	五六貫	廿三日 午前一時三十分	三九四、四粍
多度津	七二八、五	廿三日 午前一時四十五分	北北西 三八、二	一五三	廿三日 午前三時五分	二二一、八
德島	七二七、四	廿三日 午前二時三十分	北西 二三、八	六一	廿三日 午前三時	五一五、二
日之岬	七〇八、一	廿三日 午前二時	不明	—	—	九三、四
和歌山	七二一、三	廿三日 午前三時十分	西 二一、一	四七	廿三日 午前四時三十分	一五五、一
八木	七二四、〇	廿三日 午前三時四十分	南西 三六、七	一四五	廿三日 午前四時五分	一四四、八
大阪	七二四、九	廿三日 午前三時三十分	西南西 三七、〇	一四五	廿三日 午前五時四十五分	一四七、四
神戸	七二七、四	廿三日 午前三時四十五分	北東 二八、七	八九	廿三日 午前二時五十分	一五九、七
京都	七二七、〇	廿三日 午前四時十五分	北東 一九、四	三八	廿三日 午前四時	二二八、一
舞鶴	七二三、三	廿三日 午前四時	西 二二、七	五六	廿三日 午前七時二十分	一六八、六
宮津	七二四、二	廿三日 午前四時	北西 二一、六	四七	廿三日 午前七時二十分	二一四、八
經ヶ岬	七三五、四	廿三日 午前五時	不明	—	—	二二〇、六
津	七二三、七	廿三日 午前四時三十分	南東 三九、二	一六一	廿三日 午前四時	一七〇、二
彦根	七二〇、九	廿三日 午前五時	南南東 三四、三	二二一	廿三日 午前五時	一〇〇、一
名古屋	七二八、六	廿三日 午前四時五十六分	南南東 四〇、三	一六九	廿三日 午前四時四十分	一〇二、九
岐阜	七二七、五	廿三日 午前五時十五分	南東 三五、七	一三七	廿三日 午前五時十五分	三七、三
敦賀	七一八、〇	廿三日 午前五時	北 二二、六	五六	廿三日 午前九時	一二二、四
福井	七二〇、九	廿三日 午前五時三十分	西 一九、七	四二	廿三日 午前九時	一〇三、四

地名	最低氣壓（海面更正度）	其日時刻	最強ノ風速及其方向	一間平方面ニ對スル風壓	其日時刻	降水量
高山	七二八、四	廿三日 午前五時四十五分	南 二七、六	八三	廿三日 午前六時三十分	一〇七、七
金澤	七二二、七	廿三日 午前六時	西 三七、五	一四五	廿三日 午前九時十分	八二、〇
伏木	七二五、二	廿三日 午前七時三十分	西 二二、九	五六	廿三日 午前九時四十三分	八四、四
濱松	七四〇、三	廿三日 午前六時	南東 一九、八	四二	廿三日 午前三時	一五二、一
飯田	七三六、六	廿三日 午前六時	南 二〇、〇	四二	廿三日 午前七時	一七七、八
沼津	七四二、三	廿三日 午前七時	南西 二五、二	六六	廿三日 午前八時	不明
甲府	七三六、八	廿三日 午前八時	南 二三、六	六一	廿三日 午前五時	一一八、五
松本	七三二、一	廿三日 午前七時	南南東 三〇、二	九五	廿三日 午前七時	六九、四
長野	七三〇、六	廿三日 午前七時三十分	西 二三、〇	一八	廿三日 午前十一時	四六、七
前橋	七三五、〇	廿三日 午前八時二十分 午前九時二十分	南東 三三、九	二二	廿三日 午前六時二十分	四〇、七
横須賀	七四二、六	廿三日 午前七時	南南西 二七、五	七七	廿三日 午前十時	九九、〇
横濱	七四一、一	廿三日 午前九時	南南西 二八、五	八三	廿三日 午前九時	一四七、一
東京	七四〇、七	廿三日 午前十時	不明 二二、二	五一	廿三日 午前六時	一〇一、九
熊ヶ谷	七三六、四	廿三日 午前八時 午前九時	南東 二五、六	七一	廿三日 午前六時	六二、二
水戸	七三九、九	廿三日 午前十一時	南南西 二六、九	七七	廿三日 正午	四、四
新潟	七二七、四	廿三日 午前九時二十分	南西 三二、八	一一五	廿三日 午前十一時二十分	二八、七
佐渡	七二六、九	廿三日 午前八時	西 三九、四	一六一	廿三日 正午	三九、六
加茂	七二八、六	廿三日 午前十時	西 五〇、〇	二六四	廿三日 午后三時	不明
石卷	七三五、七	廿三日 正午	西南西 三八、七	一六一	廿三日 午后四時	一六、三
秋田	七二八、五	廿三日 午后一時	西北西 三二、七	一一五	廿三日 午后三時	六九、八

地名	最低氣壓（海面更正度）	其日時刻	最強ノ風向、風速度	其風壓一間平方	其日時刻	降水量
青森	七二七、六 粍	廿三日 午后 二時	西北西 二八、四 米	八三 瓩	廿三日 午后 六時三十分	三四、〇 粍
札幌	七三五、三	廿三日 午后 四時	北西 二四、七	六六	廿三日 午后 十時	八四、〇
十勝	七三四、一	廿三日 午后 七時	北西 五、〇	三	廿三日 午后 四時	不明
釧路	七三二、六	廿三日 午后 七時	南南東 一九、〇	三八	廿三日 午后 三時	不明
根室	七三一、九	廿三日 午后 九時二十分	東南東 二七、三	七七	廿三日 午后 四時	五六、四

○颶風ノ進行速度

	一時間ノ速サ		一時間ノ速サ
那覇より 名瀬まで	十四粁	名瀬より 種子島まで	三里半
名瀬より 種子島まで	三十五粁	種子島より 日向洋まで	九里
種子島より 日向洋まで	四十九粁	日向洋より 足摺附近まで	十二里半
日向洋より 足摺附近まで	三十五粁	足摺附近より 日の岬まで	九里
足摺附近より 日の岬まで	四十七粁	日の岬より 京都まで	十二里
日の岬より 京都まで	六十七粁	京都より 福井まで	十七里
京都より 福井まで	百十粁	福井より 佐渡まで	廿八里
福井より 佐渡まで	百二十二粁	佐渡より 青森まで	卅一里
佐渡より 青森まで	六十三粁		十六里
青森より 釧路まで	七十九粁		
釧路より 千島東方まで	二十里 三十五粁		九里

○名古屋の颶風觀測

（氣壓は海面更正度）

例年八月下旬より十月中旬に至るの間には南洋に在るMarshall, Mariana, Yap, Philippine諸島附近に於て殆んど絶へず颱風を發生し而して其順路は初め西若くは北西の針路を採りて進むを常とす夫れより支那海に入るもの、南清を衝くもの、或は支那東海に向ふもの等あれども北緯二十度若くば三十度の位置に接近するや其進路を轉向して北、北東等に進むもの亦尠なからず、本邦に於て世人の最も憂慮する二百十日前後に來る暴風は皆孰れも此の種の熱帶颱風に外ならざるなり、然り而して本年は此の季節に於ける氣象狀態大いに例年と其趣きを異にして氣壓配置は高壓部の北清、滿洲より朝鮮北部にまで擴張する事屢々あり低氣壓は淺薄なるもの丶往來頻繁にして北西風殊に卓越し爲めに氣温著しく冷涼に失し天氣は連日陰曇を呈して梅雨期中の如く更らに好晴の日を見ず茲を以て深厚なる低氣壓の發生少く從て暴風到來も曩に臺灣方面を通過したるもの二回ありしのみにて殆んど無難に終らんとしたりしが俄然九月十九日朝阿比島北西方に顯はれたる颱風は遂に四日間を費して

本邦を侵すに至れり

今回の颶風襲來の兆候が本所晴雨計に感じたるは九月二十一日午前十時(恰も管内沿海部へ風強かるべき警戒を發せし頃)にして其示度尚ほ高度にありて七百六十三粍三を現はしたるも徐々下降に向へり、氣温は二十一日午后七時十九度七なりしが夜に入るも殆んど仝度を保ちて十九度以下に降らず濕度は二十一日午后四時より急に濕潤を促して七二パーセントを示し午后十一時には九八パーセントとなり深夜よりは殆んど飽和点を保ちて翌日に及べり又二十一日午后三時過ぎより微雨を催し夜半頃强雨を降らして翌日に渉り、風は二十一日午前九時まで北風吹きたるに俄に南東に變じ夜に入るや復た北風に代りて風力未だ强からず、又二十一日午前八時卷雲は西より疾走して平均一秒時間に約三十五米(Besson's Nephoscopeに據る)の速度を測れり、斯くの如くして氣壓、氣温、濕度、天氣、風、雲等孰れも稍々異例の兆を現はして氣流の混乱を示せるもの丶如しと雖ども尚ほ未だ下層雲の速度緩なりしなり更らに又微動計の記錄を檢すれば二十日午后稍々著しき脉動を認めしが夫れより時々其記象を增大して風浪怒濤の刻々に高まるを推せらる次いで愈々當地に暴風の一端を示せしは廿二日午后にして氣壓は仝日午后一時より午后九時まで一時間毎に

約一粍づ丶の急降を續け、氣温は午后六時頃より急遽に高昇し雨は益々降り頻り風は南東の疾風を送りて乱雲の南東より飛來する事頗る疾く、又微動計は遽に異樣なる記錄を初めたり、次第に颶風中心の接近するや廿二日午后十時より氣壓は益々急降し而も氣温は依然として高温を保ち風勢は倍々强く午后十時には早くも南東の烈風となり間もなく雨は一旦歇み廿三日午前一時より午前三時頃迄の間には電光の閃くを見たるが斯は熱帶地方に於て大暴風の襲來せんとするに先き立ちて起る所の現象なり又氣壓の劇降する事は刻一刻と急にして午前一時より午前四時までは二十分間毎に約一粍の下降を致し、午前四時より仝五時に至る一時間には三粍三を降りたり而して廿三日午前三時頃風力一旦弱勢に傾きたるが須臾にして再び猛烈となり同時に大雨忽ち覆盆の勢を以て降注し午前三時十七分より同三時廿七分の十分間に四粍三の多量を測れり又最低氣壓の極を測りしは午前四時五十六分にして實に**七百二十八粍六**なりとす、此の低極を測る以前に晴雨計は其示度の高低する事甚だしく二粍若しくば三粍の上下を見たり、次に最强風速度は午前四時二十分より午前四時四十分の間平均一秒時に**四十米三**(南南東風)を測り更らに午前四時より午前五時に至る一時間の平均風速度に在ても尚ほ一秒時に三十六米六(南南東風)

の颶風吹けり(ダインス式風力計にては午前五時の三十七米二を最強とし又午前四時廿三分、仝四時廿八分にも三十七米〇を測る而して颶風の吹續せしは午前三時より午前六時まで、烈風は廿二日午后九時二十分に吹き初めて廿三日午前九時に及へり而して其風向は廿二日午后六時より翌廿三日午前四時まで南東を以て吹續したるが如きは直ちに其颶風中心深度の低きと其範圍の廣きとを知り得べく如斯長時に渉りて荒れ狂いたる暴風は蓋し數十年來稀有の現象なりとす尚ほ微動計記錄を視るに其の波動の非常に大なりしは廿三日午前一時より仝日午后三時までにして試みに其最大振幅を測れば午前四時十五分に於て三秒三に付〇粍一九なりき尚ほ今回は一時的大雨を降らせしとは雖も極めて短時間なりしかば其總量に於ては僅かに百二粍九にして即ち廿一日に十二粍二、廿二日に五十九粍二、廿三日に三十一粍五を降らせり已にして風向は廿三日午前六時南より南西に移り次第に西に變りて其速力漸くに衰へ氣壓急昇して氣温平順に復し天氣は拭ふが如く快晴となれり、因に記す今回の暴風に亞いで其氣壓の最も低かりしは去る明治四十一年八月七日七百三十粍二にして又風速度の最大なりしは去る明治三十六年七月九日に一秒時間三十一米四(南東風)なりき、左に當時の臨時氣象觀測を表載せん

○自九月二十二日至九月二十三日暴風雨氣象觀測表

日	時	氣壓	氣温	風向	風速度	降水量	天氣
		粍	度		米	粍	
廿二日	正午	七五六、五	二一、四	北東	三、〇	六、二	雨
仝	午后一時	七五五、七	二一、八	北々東	三、一	一、〇	雨
仝	午后二時	七五四、五	二一、九	北東	五、一	一、〇	雨
仝	午后三時	七五四、〇	二一、八	北	三、七	一、一	雨
仝	午后四時	七五三、二	二一、四	北々東	四、六	三、九	雨
仝	午后五時	七五二、九	二二、二	北東	三、二	〇、五	雨
仝	午后六時	七五一、九	二四、七	南東	五、六	〇、〇	曇
仝	午后七時	七五一、二	二五、五	南東	九、七	—	曇
仝	午后七時二十分	七五一、一	二五、七	南東	九、〇	—	曇
仝	午后七時四十分	七五〇、七	二五、五	南東	一〇、八	—	雨
仝	午后八時	七五〇、三	二五、五	東南東	一〇、七	〇、二	雨
仝	午后八時二十分	七五〇、二	二五、八	南東	一一、四	—	雨
仝	午后八時四十分	七四九、七	二五、九	南東	一〇、五	—	曇
仝	午后九時	七四九、三	二六、二	南東	一一、四	〇、〇	雨
仝	午后九時二十分	七四八、八	二六、一	南東	一三、八	—	曇
仝	午后九時四十分	七四八、四	二五、九	南東	一五、四	—	雨

日	時	氣壓	氣溫	風向	風速度	降水量	天氣
廿二日	午后十時	七四七、六	二六、三	東	一五、〇	〇、〇	雨
仝	午后十時二十分	七四七、一	二六、四	東	一六、七	—	曇
仝	午后十時四十分	七四六、一	二六、〇	東	一七、五	—	雨
仝	午后十一時	七四五、二	二六、三	東	一七、五	〇、二	雨
仝	午后十一時二十分	七四四、二	二六、五	東	二一、四	—	雨
仝	午后十一時四十分	七四四、〇	二六、二	東	二一、二	—	雨
仝	夜半	七四二、八	二六、二	東	二一、〇	〇、三	雨
廿三日	午前〇時二十分	七四二、二	二五、一	東	二三、二	—	雨
仝	午前〇時四十分	七四一、五	二五、四	東	二二、五	—	雨
仝	午前一時	七四一、〇	二五、二	東	二二、五	二、一	雨
仝	午前一時二十分	七三九、八	二五、五	東	二六、五	—	雨
仝	午前一時四十分	七三八、八	二五、二	東	二三、五	—	雨
仝	午前二時	七三七、六	二五、一	東	二五、六	二、四	雨
仝	午前二時二十分	七三六、二	二五、二	東	二六、二	—	雨
仝	午前二時四十分	七三五、六	二四、二	東	二八、八	—	雨
仝	午前三時	七三四、七	二四、二	東	二七、六	七、七	雨
仝	午前三時二十分	七三三、七	二四、六	東	二九、二	—	雨
仝	午前三時四十分	七三二、九	二五、二	東	二七、五	—	雨
仝	午前四時	七三二、〇	二三、五	東	二九、六	一、二、八	雨
仝	午前四時二十分	七三〇、五	二四、三	東	三一、二	—	雨
仝	午前四時四十分	七二九、二	二三、五	東	四〇、三	—	雨
仝	午前五時	七二八、七	二三、五	東	三六、六	一、四	雨
仝	午前六時	七三三、五	二三、八	南	三三、一	二、〇	雨
仝	午前七時	七三六、九	二四、六	南	二一、八	三、一	雨
仝	午前八時	七四二、五	二三、四	西	一七、一	〇、〇	曇
仝	午前九時	七四六、一	二三、〇	西	一五、一	〇、〇	雨
仝	午前十時	七四八、〇	二三、六	西	一一、五	〇、〇	曇
仝	午前十一時	七四九、三	二三、〇	西	九、二		曇
仝	正午	七五〇、〇	二三、四	北西	九、二	〇、〇	曇

○九月廿二日、廿三日縣下の雨量（水脈圖參照）

今回の颶風に際し此の両日間本縣管内各川の水源地附近に於ける雨量配布の如何を見るに其の最も多量なるは豊川、矢作川、揖斐川の上流に於て各二百五十粍以上を計り豊川上流の局地に於ては三百五十粍餘を量りたる處ありたり、又た揖斐川上流にても二百九十粍を觀測したる處を見たるも差したる増水を起さずして止みたり而して最少は木曾川上流、矢作川下流に於ての七十粍にして各河川甚だしき増水を

現さざりしも木曾川及長良川の下流に於ては海上波浪高かりしため海水漲溢して一時河水を増嵩せしめたり

而して今回の暴風雨は敢て多量の雨水を送らざりしも波浪强威を恣にせしため海岸に接する地方に於ては護岸並に堤防の決潰を生じて浸水著しく多大の損害を惹起せしめたり

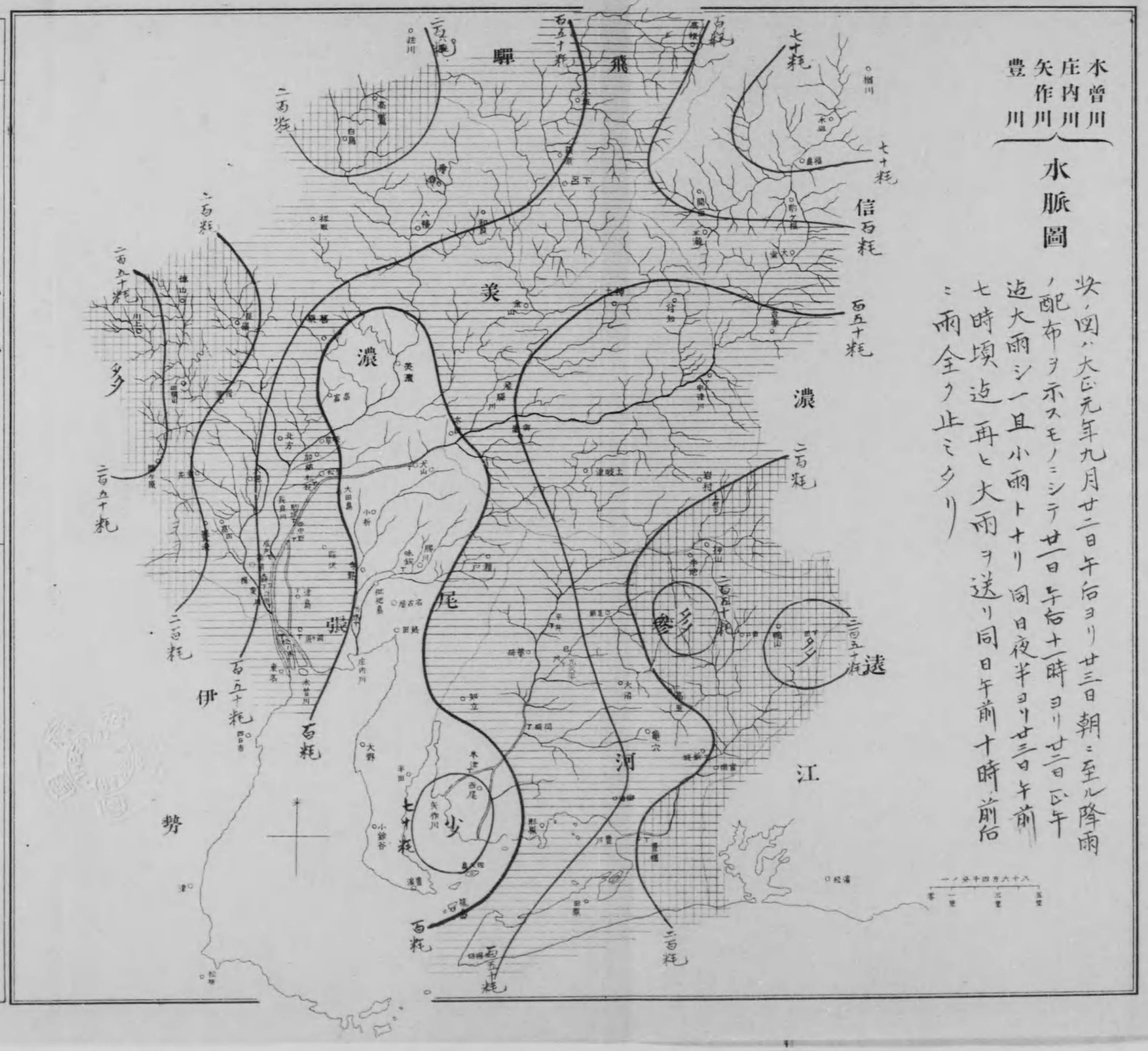
○九月廿二日廿三日縣下各地河川別及其水原地降水量

（午前十時觀測）

流域	地名	廿二日 雨量	廿二日 降雨時間	廿三日 雨量	廿三日 降雨時間	合量
木曾川	福島	三五、六粍	一五時間	二九、五粍	二四時間	六五、一粍
	駒ヶ根	二二、五	六	一六五、〇	一三	一八七、五
	吾妻	七〇、六	一五	九二、八	一四	一六三、四
	付知	三八、八	一五	一一六、二	一四	一五五、〇
	中津	六四、六	一七	一〇五、二	一三	一六九、八
	岩村	六三、五	一七	一一一、〇	一四	一七四、五
	御嵩	四五、〇	一八	一三八、〇	一三	一八三、〇
	太田	三八、五	二四	六三、〇	二〇	一〇一、五

水脈圖

水曾川
庄内川
矢作川
豊川



最高水位

水曾川	中津川	七合九勺	九月廿三日 午前十一時
	犬山	七合	仝 午后三時
	西中野	八合三勺	仝 午后四時
	前ヶ須	九合四勺	仝 午前五時
庄内川	帳	八合三勺	仝 午后九時
	立田	五合九勺	九月廿二日 午后八時
	味鋺	六合四勺	九月廿三日 午前三時半
矢作川	平井	九尺	九月廿三日 午前八時
	八帖	八合弱	仝 午前九時
	米津	八合三勺	仝 正午
豊川	新城	八合	仝 午后二時
	豊橋	五合一勺	仝 午前八時
		六合六勺	仝 午后三時

降雨時間

木曾川	福島	三五、六	一五時
	駒ヶ根	二二、五	六
	吾妻	七〇、六	一五
	付知	三八、八	一五
	中津	六四、六	一七
	岩村	六三、五	一七
	御嵩	四五、〇	一八
	太田	三八、五	二四
庄内川	多治見	二九、五	二四時間
	土岐津	一六五、〇	一二三
	瑞浪	九二、八	二四
	釜戸	一一六、二	二四
	小原	一〇五、二	二三
	足助	一一一、〇	二四
	猿投	一三八、〇	二三
	藤岡	六三、〇	二〇
矢作川	平井	二四時間	
	八帖	六五、一粍	
	米津	一八七、五	
	新城	一六三、四	
	豊橋	一七四、五	
		一八三、〇	
		一〇一、五	

水曾川
庄内川
矢作川
豊川

水脈圖

此ノ図ハ大正元年九月廿二日午后ヨリ廿三日朝ニ至ル降雨ノ配布ヲ示スモノニシテ廿二日午后十一時ヨリ廿三日正午迄大雨シ一旦小雨トナリ同日夜半ヨリ廿三日午前七時頃迄再ト大雨ヲ送リ同日午前十時前后ニ雨全ク止ミタリ

曾川	萩原	四六、八	一六	一二八、二	二三	一七五、〇
	下呂	三二、〇	一五	九〇、〇	二四	一三二、〇
	和良	四四、三	一六	一二六、二	二三	一七〇、五
	金山	? 四、〇	?	一三八、〇	?	一四二、〇
	神土	四五、五	一六	一三二、〇	二四	一七七、五
	高根	二六、五	一五	八四、五	二二	一一一、〇
	笠松	四〇、〇	一七	八五、〇	二一	一二五、〇
	犬山	一七、六	一八	六六、一	二〇	八三、七
	島	四七、〇	一七	四八、〇	二三	九五、〇
	稲澤	三九、〇	一九	六三、五	二三	一〇二、五
	津島	? 五、三	一八	一三三、二	二一	一三八、五
	前ケ須	四七、七	一八	七七、〇	二三	一二四、七
長良川	高鷲	七一、五	一四	一五〇、〇	二四	二二一、五
	白島	六八、五	一六	一五三、八	二四	二二二、一
	氣良	六四、八	一七	一二八、〇	二四	一九二、八
	板取	八四、〇	一三	九五、三	二一	一七九、三
	八幡	四〇、〇	一六	一二七、〇	二三	一六七、〇
	美濃	四四、〇	一六	四八、〇	二一	九二、〇
	長嶺	六三、〇	一六	一七四、〇	二四	二三七、〇
	高富	一八、三	一八	三〇、〇	一八	四八、三

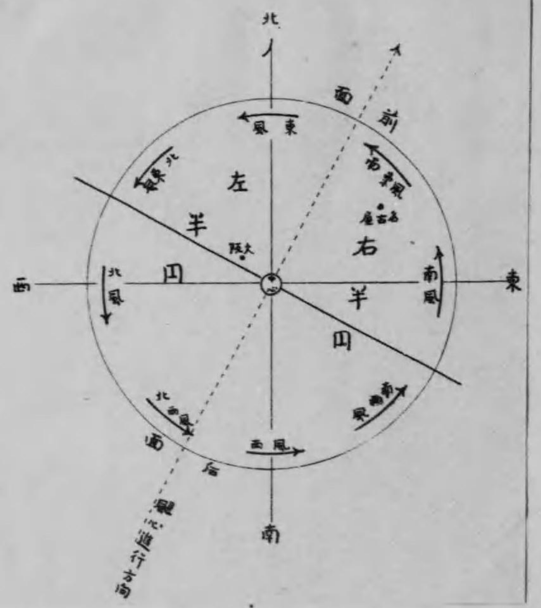
流域地名	廿二日 雨量	廿二日 降雨時間	廿三日 雨量	廿三日 降雨時間	合量
加納	四六、五粍	一八時間	七九、六粍	二三時間	一二六、一粍
北方	三三、〇	一八	九六、二	一二	一二九、二
揖斐川 西横山川上	六一、五	一七	二二九、五	二四	二二二、七
揖斐川 揖斐ヶ原	五七、〇	一六	一六五、七	二四	一七六、二
揖斐川 揖斐ヶ原	六二、〇	一七	一一四、二	二三	一五五、〇
揖斐川 揖斐ヶ原	三五、〇	一八	二二〇、〇	二四	二二〇、〇
揖斐川 垂井	三五、〇	一八	一一〇、〇	二三	一四五、〇
揖斐川 大垣	四七、三	一七	一二七、〇	二二	一七四、六
揖斐川 高田	六三、〇	一七	九二、〇	二四	一五五、〇
揖斐川 養老	六六、〇	一八	一四五、五	二四	二一一、五
庄内川 土岐津	四七、〇	一七	一〇四、〇	一九	一五一、〇
庄内川 小折	四六、〇	一四	三一、五	二二	七七、五
庄内川 瀬戸	四二、五	一五	一〇四、三	二一	一四六、八
庄内川 勝川	四五、〇	一九	四九、八	二一	九四、八
庄内川 寺野	四五、〇	一九	六一、四	二二	一〇六、四
庄内川 枇杷島	四四、〇	一八	五三、五	二四	九七、五
庄内川 名古屋	四五、三	一七	五四、五	二三	九九、八
庄内川 上村	八二、四	一五	一四五、九	二二	二二八、三

流域地名	廿二日 雨量	廿二日 降雨時間	廿三日 雨量	廿三日 降雨時間	合量
押山	七七、七	一七	一六二、〇	二四	二三九、七
牛地	八九、〇	一六	一一五、五	二四	二二四、五
足助	六八、七	一七	二二三、〇	二二	二二二、〇
矢作 怒田沢	八五、五	一七	一九八、六	二二	二一九、六
矢作 大沼	四〇、五	一五	一四四、五	二三	一八五、〇
矢作 龜穴	一一七、六	一四	七五、八	二二	一九三、四
矢作 舉母	四二、〇	一七	八七、〇	一九	一二九、〇
矢作 岡崎	七四、〇	一七	五六、〇	二〇	一三〇、〇
矢作 知立	六九、〇	一九	四七、〇	一八	一一六、〇
矢作 西尾	二二、〇	一八	四三、四	二〇	六六、四
豐川 下田	一〇二、〇	一七	一六一、二	二四	二六三、二
豐川 鴨山	一一一、七	二三	二四六、二	二四	三五七、九
豐川 新城	九二、九	一八	八〇、六	二二	一七三、五
豐川 富岡	一二七、五	一九	七六、〇	二二	一〇三、五
豐川 御油	九〇、〇	一六	一七、二	一九	一〇七、二
豐川 豐橋	一一八、五	二〇	八三、二	二三	二〇一、七
熱田	五三、三	一八	四四、五	二〇	九七、八
半田	五三、〇	一八	二九、〇	二〇	八二、〇
小谷	七五、〇	八	六四、〇	二二	一三九、〇
形原	九四、二	一五	五一、〇	二四	一四五、二

流域地名	廿二日 雨量	廿二日 降雨時間	廿三日 雨量	廿三日 降雨時間	合量
豐濱	六〇、五粍	一八時間	四八、五粍	二四時間	一〇九、〇粍
篠島	五一、七	一八	二七、七	二四	七九、四
野田	二七、五	二一	七〇、一	二四	一九七、六
田原	九六、五	九	二一、〇	二〇	一〇七、五
堀切	一二二、五	二〇	二三、四	二〇	一四四、九

如斯深厚なる低氣壓にして若し南沿岸を通過したるならんか伊勢灣の沿岸は海嘯の爲め尚一層悲慘なる災害を蒙りしならん(南洋琉球諸島の東方又は小笠原島の西方に發現する颶風は最初北西又は西の方向に進むも緯度二十九度又は三十度邊に來れば北東又は東北東に變向することを常とす)而して今回の颶風に際し當所の氣壓は大阪より高きが故に風勢も隨て大阪より幾分弱かるべきに彼我其威力に於て甚しき遜色否な寧ろ稍や强きを致したるの觀あるは颶風中心周圍の四象現中前面右半圓と左半圓に於ける位置の相違にあることなるべし即ち颶心は大阪に接近し其稍や東方を通過し名古屋は遙か前面の右半圓所謂危險半にありしを以て風勢比較的强烈を極め且つ颶心の經過稍や遲々たりしを以て風の吹く時間も頗る長く爲

めに被害も多大を來したるなり反之大阪は左半圓内の位置にありしを以て其中心に接近せる割合に風力の劇甚ならざりしものあり今假りに其中心位置を左右半圓に基き示すときは左の如し



此の圖を見るときは今回の颶風に於て名古屋と大阪の其中心に對する位置を明瞭ならしむ而して名古屋は颶風中の風向は南東にして漸次南より南西夫より西に順轉して靜止したるも大阪に於ては北東より北となり西に逆轉し又颶心の最も近接したるときは風稍や緩となり西風となるや風勢最も强烈なりし事實を以て觀るに

理論上颶風中心は大阪に最も接近して其少しく東方を掠めたるものなるべし

右の如き理由あるを以て茲に注意すべきは愛知縣の沿岸に居住するものは北東の風吹き荒むと同時に氣壓の低落すること甚しければ海嘯の虞あることを覺知すべく如何となれば北東寄りの風は颶心が東方にありて近海に低氣壓の影響を直接受くるに依る反之南東寄りの風は其中心が西方に在りて當地方の沿岸に直接海嘯を起すの原因とならざればなり

○各川の出水

今回の颶風襲來に際しては幸ひに多量の降雨を伴はず從て河川の汎濫、增水の被害は殆んど無かりしも木曾川最下流に在る海西郡前ヶ須にては二十三日午前五時突然十四尺五寸(九合四勺)の高水に昇りて所謂寢耳に水の增水に遭ひたるが斯は全く上流地方よりの雨量出水を受けて遽かに此の增高を來したるに非らず暴風に因て起りたる激浪の爲め海嘯の如く潮汐の滿ち來りて斯の異常なる出水を呈せしものにして現に海東郡を南北に貫流する日光川に於ては當時海水の押し上げし爲めに破堤の奇禍に遇ひ思はぬ大被害を受けたるが縣下全般より視るときは風勢の劇甚

なりし割合に雨量少なかりし爲め慘害の幾分を輕減したるものと謂ふべく然れども颶風の未だ冲繩島附近に在りたる二十一日午後より雨を催ほし二十二日には終日降雨して各川孰れも相應に出水を見たる處へ二十三日の未明より晨に至るの間大雨を注下したるに因り遂に木曾川に於ては上流の苗木(元中津川)にて二十三日午前十一時、二十尺五寸(七合九勺)に昇り、犬山にては二十三日午后三時三十分、十五尺(七合一勺)を測り、西中野にては二十三日午后四時十五分、十七尺五寸(八合)となれり、次に長良川の立田に於ては二十三日午后十時、十二尺八寸(八合二勺)を測りたるが是れ亦潮汐の逆流に因りて增嵩を促したるものゝ如し、又庄內川に於ては味鋺にて二十二日午后八時九尺五寸(五合九勺)に昇り、萬場にては二十二日夜半及び二十三日午后三時の二回に十尺四寸(六合四勺)の出水を見、又矢作川に於ては上流平井にて二十三日午前九時十二分、十七尺二寸(八合二勺)に增水し、九久平にては二十三日午前七時五十五分、十九尺二寸(八合四勺)となれり八帖にては二十三日正午、十四尺二寸(八合三勺)に昇り、下流の米津にては二十三日午後二時、十四尺五寸(八合)の出水を致せり又豐川に於ては新城にて二十三日午前八時十分、二十尺六寸(五合一勺)に昇り、豐橋にては二十三日午后三時、十六尺三寸(六合六勺)に增水せり

要するに今回の出水は矢作川の八合四勺最も高水にして木曾川の八合之れに亞ぎ(但し前ヶ須の九合四勺長良川の八合餘は通例の出水と見做すは適當ならず)豐川、庄内川は二十二日の降雨にて早く已でに全夜最高水位に昇り一旦減水に向ひ二十三日未明の大雨にて再び出水したるものにして僅かに六合内外に昇りたるのみなりき

○暴風と愛知縣測候所

測候所は不斷に毎時の氣象を觀測し其外臨時の出來事を詳しく記錄したり又は器械に自記せしめる杯尚くも氣界の現象と云へば渾べて洩れなく觀測せんければならぬ、故に一度び暴風の襲來を豫知するや所員は晝と云はず、夜と云はず皆總出にて觀測報告等に趁はれ又大雨の場合には河川へ増水豫報、水源地の大雨電報、出水報告に忙殺せらるゝ例になつて居る

今回の暴風に於ても二十一日の朝、沖繩島の南方に颶風顯はれたりとの電報を見て已でに多少の風雨は免れざることゝ信じ直に管内沿海部へ風强かるべしとの警戒報を發して注意せし次第なるが、翌二十二日の朝には颶風中心が奄美大島の邊りまで進んで來たと知れたから此時最早や暴風の疑ひなしと思ひ更らに二十二日の朝管内沿海部、平原南部、平原北部へ向け尚ほ一層風雨强かるべしとの警戒報を發して充分に注意を促し又同時に前夜より降る雨は寸時も歇む時なく、各川の上流地方より續々と大雨の電報に接し尚ほ降り續く模樣見へし故、庄内川と豐川へ先づ増水豫報を發し、次いで同日午后には矢作川へも増水豫報を出して置いたのであるが其都度各所へ電信、電話及び書面にて十數個所、十數通の報告を發し而かも此種のものは孰れも早ければ早きだけ効力が多いと云ふ譯けで最も急速を要するから可なりに忙がはしき思ひをなしつゝある間に晴雨計は刻一刻と低くなる風は次第々々に强くなる之れに應じて電信、電話は倍々頻繁を重ね愈々夜に入りて颶風中心が土佐洋附近まで接近せし頃より怪しげなる黑雲は南東より北西差して飛び去り、不穩の空は目前に迫り來りて午後九時には既でに烈風の範圍内に入りたり、されば自記風速計には電池を増加し、凡ての自記器械には油を差し、インキを含め、風壓計には速や廻しの時計を据へ付け、茲に所員は夫々の受け持ちに從ひ、自記風壓計、自記風信器、自記風速計、自記晴雨計を絶へず注視する者、電報を發送し又は大雨及び出水の電報を受付けて之れを翻譯し縣廳土木課へ報告す(一出水電報を受くる毎に六葉つゝを要す)

る者、二十分間毎に風速、風信、氣壓、氣温等を觀測し之れに更正を施こして記帳し又雨の模樣、電光の觀測等に注意する者、電話に着き切りて應答し又は熱田水上警察署へ海浪の注意其他重要と認むる所へ特に注意を促す者等僅か七八名足らずの所員であるから實に手も足も舞ふ程の有樣にして寸分の暇もない、小使は風雨の最中も厭はず絶へず縣廳等へ使ひに走らせ居たるが廿三日午前一時頃已でに電燈は消へ、午前三時頃電話の不通となりし頃より風雨は更らに暴威を逞ふし事務室へは雨漏り甚しく一時は室内に在りて猶ほ屋外に在るが如く皆濡れ鼠となりて働けり、而して特に今尚ほ懷ひ出すも氣味惡きは颶風に驅られて高き風力臺を載せたる事務室の動搖甚たしく一と吹き毎にミシミシと響く音は實に危險千萬にして振子時計は建物の動搖の爲めに午前一時頃より東西に掛りしものも南北に掛けたるものも、皆休止し柱と鴨居とは搖らるゝ度び毎に大いなる隙間を生ずるを見ては決して心安からず縁の搖ぐ樣は宛かも船中に在るか如き狀態にして皆々必死の精を竭したるが午前四時廿分頃よりは彌やが上にも尚一層獰猛の力を以て吹き散らす狂風には流石に靈勇を振ひし所員も遂に耐らへ切れず最早や家屋轉倒は免れじと覺悟し炭火、瓦斯燈を消し更ふるに灯燈として避難せんとする間に其瞬間忽ち轟然たる一聲と

共に天氣信號柱は見事に倒れたり、風力臺の陷るは今か今かと氣遣ひなからも献身的に危險を冒して觀測せさるへからず而かも事務室の瓦は絶へず吹き落され硝子戸は墜落破碎し又南隣女學校々舍の亞鉛板、屋根板は木の葉の如く舞ひ來りて觀測園に落下し爲めに背を打たれし者さへありし程にて其凄慘たる光景は筆紙の到底能く形容し得ざる所なり、夜全く明け離れて午前五時過ぎ漸く風力衰弱に向はんとせしに風力臺上の風速計に故障を生じたれば捨て置けず直に高臺上に危險を冒して昇り應急の修理をなせしが、唯だ見る風力臺は傾斜し、階上の壁は地震後の如くに龜裂し、事務室に掛けたる額は多く打ち落され、瓦は所々剝き取られ、信號柱は道路を横ぎりて向ふの人家に倒れ、門は今にも倒れんとして危く傾立し、樹木の折損、壁、板の剝落、硝子戸の墜落、硝子の破碎して散乱せる有樣は彼の明治二十四年濃尾大地震を措いては多く知らざる慘害なりき此日朝より不通延着の電報頻々として到り之れが翻譯と報告とに忙殺さるゝこと終日にして盡きず翌二十四日に及べり乃ち別項登載せる暴風報告は其れより匆惶として實際の狀況を種々に調査し當時の器械現象を一々描寫せしものなり

○颶風の進路經過

一、今回の颶風進路經過に付ては不取敢本所は所見を報告したるが今中央氣象臺の調査に係るものを記すれば左の如し

去る十九日朝亞比島の北西方洋上に颶風出顯し北西方に進行中なりしが同日午后に至り呂宋の東方海上に進み同夜宮古島の南西方海上に於て其方向を北東に轉じ二十日の朝は仝島の南方洋上に出で二十一日朝沖繩島の南方約百二十浬の洋上に來り二十二日午前六時奄美大島の東方に迫り仝午后二時屋久島の東方に在り終に同十時高知縣足摺附近に襲來し京阪以西以東に非常なる暴風雨を釀すに至れり而して此颶風は更らに北東に其進路を繼續し四國の東部內海東部を通過し京阪地方と姫路岡山の間より舞鶴附近に向て中國を横斷し二十三日午前六時には石川縣及福井縣の海岸に沿て能登半島を襲ひ關東及び東北地方に暴風雨を起すに至れり尙ほ其中心は日本海岸に沿て進み仝日午后二時奥羽地方を横斷し北海道を通過しオホツク海に走れり

二、今回の颶風は亞比島の北西洋上より北西に進行し二十日の夕、宮古島の南西海上

にて北東に轉回したるものにして轉向の点は東經百二十六度半、北緯二十一度半に在り而して轉向前後の進路は極めて規則正しく直線に近し又進行速度は轉向以前は之を確知し難しと雖も轉向後琉球列島附近までは一時間十五粁にして夫れより京阪附近に至るまでは一時間四十八粁となり更に進んで本邦北部に至る頃は一時間百〇七粁となれり乃ち今回の颶風も常の如く轉向点附近までは其進行極めて遲々たるを免れざりしが北上するに從て著しく其速度を增せしを知る

三、氣壓の深度　颶風の洋上に在るや其深度大なるもの多しと雖も陸上に至るに及んでは急に埋積して其深度を減ずるを常とす然るに今回の颶風の如きは七百十粍の深度を持續せしは實に稀有なる現象とす故に此点より察するも此颶風が洋上に在りし時は頗る深厚なりしを想象するに難しとせず云々

四、雨　量　今回の颶風は風勢の猛烈なりし事は勿論なるも大雨は稍々一小局部に止まり仝体より見れば降水は割合に劇甚ならざりしが如し而して降雨の最も多かりしは廿二日より翌日午前六時に至る廿四時間の量は四國東部及紀州半島に最も多大にして九州及び四國南部之に亞ぎ房總半島南端も又多量にして之と伯仲の間にあり即ち最も多量なりしは八木の四百十四粍、德島三百五十二粍之に次

ぎ布良の二百四十粍、高知の二百二十九粍、大分の二百一粍、多度津の百八十九粍、佐多岬の百七十八粍、松山の百七十三粍、舞鶴の百六十六粍、堺の百六十一粍、足尾の百四十三粍、岡山の百廿六粍、宮崎の百十四粍、足摺の百十粍、壽都の百〇一粍、飯田の百粍とす

○被害概況

今回の暴風雨は實に近來未曾有の慘事にして其の被害も高大に上り縣下に於ては三河中部以北を除けば悉く强烈にして就中名古屋熱田海岸及び尾張西部より全北部に亘りては最も猛威を逞ふしたり最も此の暴風は多量の降雨を伴はさりしため諸河川の増水を現はさざりしも氣層の傾斜急峻は茲に風力を増嵩し波浪を起して海水を漲溢せし爲め熱田方面、海東、海西に多大の水害を釀すに至れり

本縣警察部の調査による時は人の死百四十一名、行衛不明十四名を出し家屋の全潰五千八百三十八戸、半潰したるもの四千二百四十四戸、流失三十三戸にして浸水家屋(床上床下)實に七千八百七十八戸に達し船舶の流失、破損等九百三艘、其中名古屋港に於て流失、沈沒四十九艘、破損二百六十七艘を出し電柱の顚倒七百六十四本にして全

災害調査表

愛知縣警察部

區別	所轄警察署名	人 死 男	人 死 女	人 傷 男	人 傷 女	人 行衛不明 男	人 行衛不明 女	畜 死	畜 傷	住家 全潰	住家 半潰	住家 破損	住家 流失	住家 浸水 床上	住家 浸水 床下	船舶 流失	船舶 沈没	船舶 破損	電柱 顚倒	墻塀石垣 破損
新榮町		人	人	人	人	人	人	頭	頭	戸	戸	戸	戸	戸	戸	艘	艘	艘	本	所
笹島町																				
門前町		二	二	二	二			一	一	二、三八七	二、四三六	四三		三	六、三七七				二	一、六四
鍋屋町		二	五	一	六			六	一	五七	一一〇	七、九一一		一六	九、二八				三七	一、五六六
江川町		二		一	五					六六	五〇	二、〇八一								
熱田		一〇	一五	五	二	一	四			四四五	三二九	二、五四四	七	一、五二五	一、三六四					六〇三
勝川		三	四	四	七					一一	四二〇	四、〇九九							一二八	一、〇八三
瀨戸		一	一	二				一	一	一三六	一七六	三二七			二〇				一一	四八四
西枇杷島		二	一	一	二			九	九	三一四	三一九	三、四九一							二三	五五六
布袋		三	四	七	一三					一、〇九一	四七五	四、二四七							五七	四五六
犬山		一		二二	一	一				四九七	五八八	一、三六六			一〇				五〇	六八七
島		六	五	一五	五					五三二	三六九	二、六〇九							一〇	四九二
一宮		五	七	八	一五					五五九	二二三	二、五〇九	一	二〇	四八				五〇	五二八
稻澤		一	一	二	三			一		一四六	八五	七九								八
津島		二	二	六	六	二	四		二	二九四	一九五	四、六四六	六	四四四	五五〇	二五	二	五二	二二	三一九
彌富		二	一	五	二					一四六	一九六	二、八八一	五	一一八	六四	一四	二	七八	一〇	八七
半田		四		三	二				一	九九	五六	四、四七一	五	一九七	六二三	二四	一六	一三七	三九	二、六一二
横須賀		一	二	一	二					七四	六七	一、一五五	七	一一	七一	四一	一	一	四二	五一二
安城		一	三	二	四			三	四	一六二	一〇四	一、二〇一		二八	二三			二	四〇	五二四
大濱				一	一					三九	六四	九八二	二	一七八	一五八	二	三	八	二八	九六六
西尾		一	一	一	一			三	四九	四五	七五四	七五四			四〇			一五八	四	二九三
岡崎		一	一	一	一			一九	四三	一八	一七九	一、四五〇		一	一				一八	一一三
母		一	四	二	二				一	一八一	一〇三	六、四五〇		二	五〇三				三二	五、九五〇
擧						一														
足助					二					二一	二八	五三								二
田口										一	二九	五三四			二〇				二	五四
新城												七		二	三				四	
御油										三	三	七六			二三				二	二〇
豐橋										五	六	三〇			二二				二	一七七
田原		一四	一	九							三	三六		一	一一	四	一	七	四	一〇三
富岡										四	三	八三							二	二
名古屋水上		七	一			二				一						二	四七	二六七		
合計		八二	五九	九七	八五	六	八	三五	三六	五、八三六	四、二四四	五九、八四九	三三	二、五八三	五、一九五	一一三	七六	七一四	七六四	二〇、九一八

災害調査表

愛知縣警察部調査

人 傷 男	人	六	—	二	一	一	五	四	二	一	七	一二	一五	八	二	六	五	三	一	二	一	一	一	二	—	—	—	—	—	九	—	—	九七
人 傷 女	人	—	—	四	六	五	二	七	—	二	一三	一	五	一五	三	六	二	二	二	四	一	一	—	二	二	—	—	—	—	—	—	—	八五
人 行衛不明 男	人	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	二	六
人 行衛不明 女	人	—	—	—	—	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八
畜 死	頭	—	—	一	—	—	—	—	—	九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	三	一九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三五
畜 傷	頭	五	—	一	六	—	—	一	一	九	—	—	—	—	一	二	—	一	—	四	—	三	—	一	—	一	—	—	—	—	—	—	三六
住家 全潰	戸	七〇	二三	五八	五七	六六	四四五	六九七	一三六	三一四	一、〇九一	四九七	五三二	五五九	一四六	二九四	一四六	九九	七四	一六二	三九	四九	四三	一八一	二七	二一	—	三	五	—	四	—	五、八三八
住家 半潰	戸	一二一	二四	四三	一一〇	五〇	三二九	四二〇	一七六	三一九	四七五	五八八	三六九	二二三	八五	一九五	一九六	五六	六七	一〇四	六四	三五	一八	一〇三	二八	二九	二	三	六	三	三	—	四、二四四
住家 破損	戸	二、〇二五	二、五八七	四三六	七、九一一	二、〇八一	二、五四四	四、〇九九	三二七	三、四九一	四、二四七	一、三六六	二、六〇九	二、五〇九	七九	四、六四六	二、八八一	四、四七一	一、一五五	一、二〇一	九八二	七五四	一七九	六、四五〇	五三	五三四	七	七六	三〇	三六	八三	—	五九、八四九
住家 流失	戸	—	—	—	—	—	七	—	—	—	—	—	—	一	—	六	五	五	七	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三三
住家 浸水 床上	戸	—	三	—	—	一六	一、五二五	—	—	—	—	—	—	二〇	—	四四四	一一八	一九七	一一	二八	一七八	四〇	—	二	—	—	—	—	—	一	—	—	二、五八三
住家 浸水 床下	戸	二〇三	六三七	—	—	九二八	一、三六四	—	二〇	—	—	一〇	—	四八	—	五五〇	六四	六四三	七一	二三	一五八	五〇三	二	二	—	二〇	三	二三	二三	—	—	—	五、二九五
船舶 流失	艘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	二五	一四	二四	四一	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	二	一一三
船舶 沈沒	艘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	二	二	一六	一	二	三	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	四七	七六
船舶 破損	艘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五二	七八	一三七	一	—	八	一五八	—	—	—	—	—	六	—	七	—	二六七	七一四
電柱 顛倒	本	一三	一六	二	九	三七	—	一二八	一一	二三	五七	五〇	一〇	五〇	一〇	一二一	一〇	三九	四二	四〇	二八	四	一八	三二	—	—	四	二	二	四	二	—	七六四
墻塀石垣 破損	所	五六七	一、五六〇	一六四	一、五六六	四二九	六〇三	一、〇八三	四八四	五五六	四五六	六八七	四九二	五二八	八	三一九	八七	二、六一二	五一二	五二四	九六六	二九三	一一三	五、九五〇	三	五四	—	二〇	一七七	一〇三	二	—	二〇、九一八
非住家 全潰	棟	八三	三二	四五	一七四	八六	三三八	六四九	一五七	四二三	八七五	五五六	三二九	三四〇	一三三	三四二	一七七	二三六	一四一	三一三	一六〇	一五五	一一〇	二〇九	二六	二二	—	四	九	三	五	—	六、一三二
非住家 半潰	棟	二七	一八	一七	一三五	一〇五	一二一	四四九	一五三	二八五	二二九	七三二	一四九	一四九	五四	六七	一三三	一二七	七五	一九〇	八六	六一	三一	一〇三	二八	一四	三	三	六	八	一	—	三、五九九
非住家 破損	棟	四六	九	一九五	四、一一三	七一三	一、〇八九	二、三三〇	三九五	二、七六〇	二、五二三	一、〇四三	一、〇一九	八六二	一四	二、四一〇	一、二四五	一、五一三	七二七	五六九	五一五	二六五	一一四	七、五八〇	七六	二四二	—	一九八	一四	三五	四四	—	三二、六五八
非住家 流失	棟	—	—	—	—	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—	六	五	五	二	—	二	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	二八
非住家 浸水 床上	棟	—	—	—	—	四	六〇	—	—	—	—	—	—	—	—	二〇五	三〇	五一	九	五	一七	一二	五	—	—	—	—	一七	—	二	—	—	四一七
非住家 浸水 床下	棟	一四	—	—	—	二三〇	六二	—	一一	—	—	—	—	二	—	二一六	一五	二三六	二四	四	八四	二三	三	三	—	一七	—	—	七	—	一二	—	九六三

く交通機關を杜絶せしめたり、又た非住家の全潰六千百三十三棟、半潰三千五百九十九棟、流失二十八棟を出したり而して死者を多く出したるは熱田の三十五名、田原の十四名、一宮の十二名、島の十一名にして倒潰家屋は布袋の千九十一戸、勝川の六百九十七戸、一宮の五百五十九戸、島の五百三十二戸とす、浸水家屋は熱田の二千八百八十九戸最も多く津島の九百九十四戸之れに次く而して名古屋港沿岸に接したる處は海水漲溢して七百餘町歩は浸入し又た日光川堤防十八ヶ所決潰して海東郡地内二千七百余町歩は浸水の災厄を蒙むり農作物は皆無に歸するもの多く橋梁の流失したるもの三十三ヶ所、道路の決潰約百四十ヶ所に達し又其他山崩二十八ヶ所ありて北設樂郡地方被害最も多く東加茂郡賀茂村に三ヶ所あり尤も該地方は降雨割合に多量なりき

○浸水被害

（浸水圖參照）

今回の暴風雨に際し堤防決潰或は海水の浸入したるものを調査するに名古屋市（浸水面積六百三十町歩）浸水は南區即ち熱田方面最も烈しく全地は海波増高して面積六百二十三町は海水の浸入する處となり稻永新田、西築地、東築地、千

年新田最も慘狀を呈し約三千の家屋は空しく海水の浸入する處となり農作物多くは皆無の姿となりたり其外西區にも千有餘の浸水家屋を見たりしも是等は河水の汎濫又は溝渠の漲溢したるものにして只だ一時の浸水なりき

愛知郡(浸水面積二百六十町歩) 山崎川汎濫して呼續町大字瑞穗、千竈四十町浸入し浸水家屋七十戸に及ぶ、又た呼續町大字圖書新田、紀念新田六十町、浸水家屋二百八十戸、笠寺村大字星崎に八十五町浸水し家屋の浸水四十戸農作物は皆無の狀体にして小碓村大字熱田前新田に七十五町浸水す是等は何れも海水の漲溢に基くものなり

海西郡(浸水面積四百町歩) 十四山村大字海屋新田、飛島村大字政成新田、鍋田村大字三稻外繰出新田(通稱末廣新田)にして海水の浸入する處となり米作は皆無なり

中島郡(浸水面積四百五十町歩) 平和村、祖父江町の一部にして多くは日光川、領内川の堤防の決潰に基くものなるも修繕工事を速かならしめたれば農作物の被害割合に僅少なりき而して堤防の決潰したるは平和村十六ヶ所百六十間、破損三十ヶ所二百五十三間、長岡村一ヶ所二十間、橋梁の流失祖父江町一ヶ所四間、平和村一ヶ所十八間、破損明治村に七ヶ所四十間ありたり

海東郡(浸水面積二千七百六十三町九反歩) 斯郡の水害は實に高大に昇りたり最も斯の水害は河川の增水の結果に非ずして波浪高かりし爲め海水一時に漲溢して河川の堤防決潰を大ならしめたり堤防の決潰は日光川筋佐織村地内六ヶ所、永和村地内三ヶ所、蟹江町地内三ヶ所、南陽村地内三ヶ所、領内川筋佐織村地内七ヶ所、目比川筋神守村地内二ヶ所、蟹江川筋七寶村一ヶ所、蟹江町一ヶ所にして尙ほ南陽村にて護岸の決潰一ヶ所、東小川堤防一ヶ所及び蟹江町にて善太川堤防一ヶ所破損したり、橋梁の流失は目比川一ヶ所(十間)日光川二ヶ所(五十八間、百二十間)ありて田畑の埋沒、流失は津島町一反、永和村一町四反、神守村一反、七寶村一反、蟹江町五反、佐織村一町九反にして浸水したるものは津島町二十町八反、永和村五十五町四反、神守村七百八十町九反、七寶村四十二町五反、蟹江町五百六十六町三反、南陽村百七十九町一反、大治村三百六十三町四反、甚目寺村二十七町三反、佐織村二百五十町の多大を現はし浸水家屋蟹江町に三百九十戸、神守村に二百七十五戸、南陽村に百六十九戸、永和村に五十七戸にして日光川、蟹江川に包圍せらるゝの土地即ち神守村、蟹江町並に日光川西岸に位する永和村は悉く水害の災厄を蒙むり西の森方面殊に慘狀を極む、其外南部新田にも海水の浸入したるもの佐織村、津島町の一部にも浸

水したるものありて農作物の被害高大に昇りたり

知多郡(田畑の浸水面積四十九町五反歩)　仝郡は沿岸大半浸水したり堤防の決潰は半田町四ヶ所、龜崎町十ヶ所、東浦村十六ヶ所、上野村一ヶ所、横須賀町四十三ヶ所、八幡村二十ヶ所、常滑、西浦町の各一ヶ所、内海町三ヶ所、富貴村六ヶ所、武豊町二十六ヶ所、成岩町三ヶ所にして田畑の浸水したるもの龜崎町大字乙川(四町)仝町大字龜崎(二十五町)河和村大字布土(三町五反)半田町(十二町)西浦村(五町)橋梁の流失半田町(二十間)決潰道路河和村(四十間)西浦村(二百四十間)ありたり

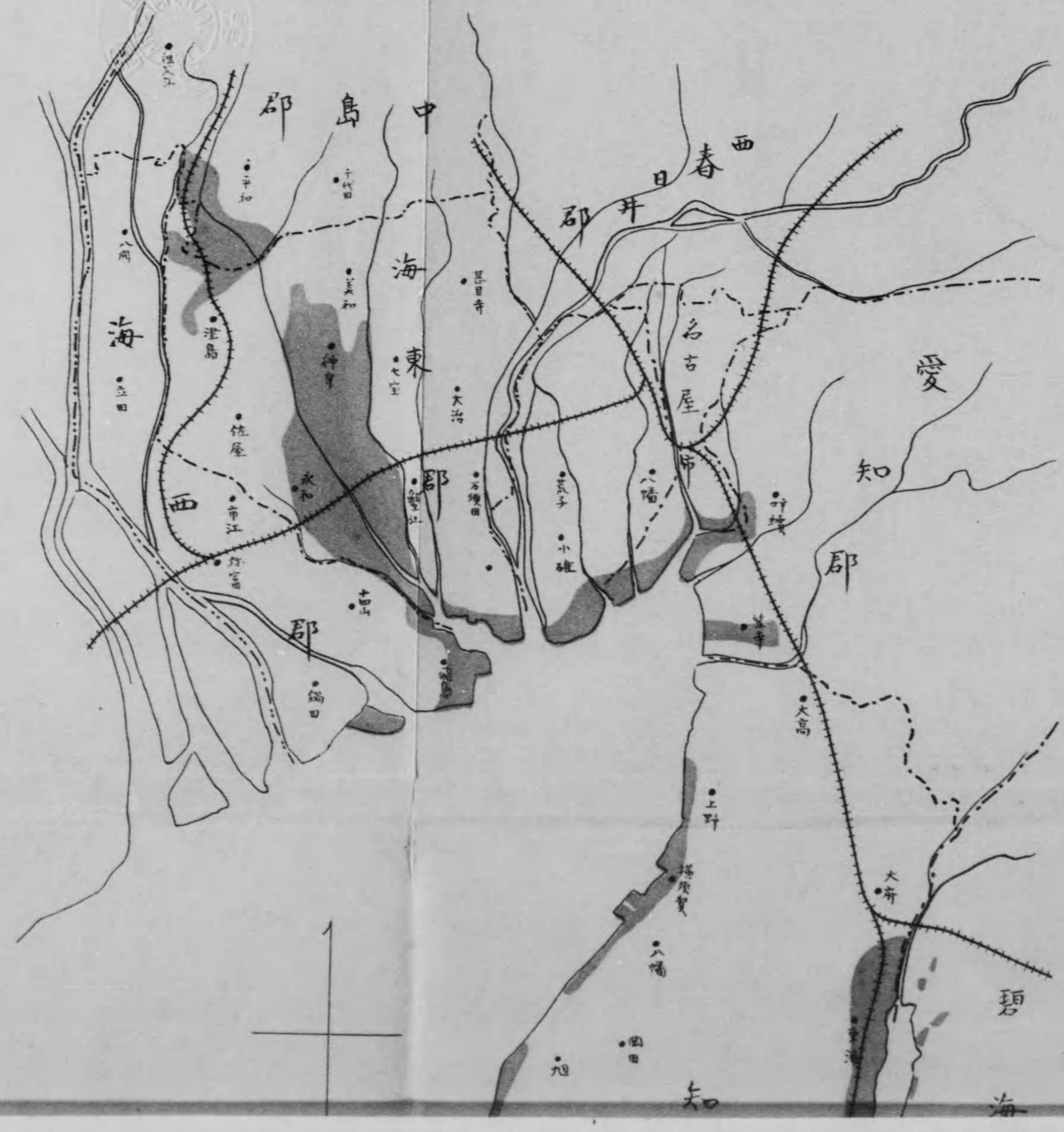
碧海郡(浸水面積三百三町一反歩)　浸水したる町村は刈谷町(九十五町五反)依佐美村(八十五町)高濱町(五十町)大濱町(七十一町)棚尾村(一町六反)堤防の決潰は五ヶ所、橋梁の流失したるもの二ヶ所ありたり

幡豆郡(浸水面積四十町)　只だ一色村大岡新田の堤防四十間決潰して海水浸入し橋梁の流失一ヶ所を現はしたり

寶飯郡　堤防の決潰、塩津村(百五十間)前芝村(八間)護岸の決潰前芝村(三十五間)御津村(八十間)大塚村(百十八間)三谷町(五十間)塩津村(七十五間)防波堤決潰蒲郡町(三十五間)三谷町(二十間)御津村(百間)にして浸水町村は豊川町、牛久保町、下地町、御津村、大塚村、三

浸水地圖

大正元年九月廿三日



碧海郡
知多郡
幡豆郡
浸水地
大高
上野
大浜
高須
八幡
岡田
旭
大野
常滑
成岩
富貴
河和
野間
内海
師崎
一色

谷町、塩津村、形原村、西浦村にして是等は只だ沿岸の一部に海水の浸入したるに止まりたり

額田郡(浸水面積四十二町歩)　岡崎町男川堤防(三十間)決潰して仝町には(十五町)岩津村(二十七町)浸水し橋梁の流失一ヶ所ありたり

西加茂郡にも堤防の決潰したるものありて擧母町に五十町歩浸水したり

渥美郡杉山村にて堤防決潰二十間に及び潮水の浸入七十五町歩を出したり

八名郡(浸水面積四百六十町歩)　豊川沿岸に屬する石巻村(八町)賀茂村(五町)金澤町(七町)下川村(百二十町)三上、豊津、橋尾村(三百二十町)浸水し橋梁の流失したるもの二ヶ所ありたり

北設樂郡名倉、武節、段嶺村に田畑浸水したるもの十五町五反を出し橋梁の流失七ヶ所を見たり

○農作物被害

農作物の受けたる損害は實に驚大に達し縣下を通して之が災厄に遭遇せざるはなかりしが三河に至れば其程度漸減し中部以北にては被害至つて輕微なりき今其被害反別を上ぐれば總計十二萬三千百六十五町にして見積價額實に九百六拾參萬八

千四百五拾圓を計上したり而して被害の最も劇烈なりしは海東海西名古屋知多愛知郡にして是等の地は浸水被害を蒙むる甚だしかりしなり(就中海東郡の一部にては本年晩春に際し不時の雹害を起こし麥作皆無を現したるに今又此の災害を見るに至りたるは悲慘の極と云ふ可し)

而して米作に於て收穫皆無に歸したる地は尾張中部以南に最も多くして海東郡の五百七十六町四反海西郡の三百七十六町一反名古屋市の二百四十六町五反知多郡の百八十四町六反愛知郡の百七十一町三反碧海郡の百五十八町七反渥美郡の七十八町一反幡豆郡の四十五町にして額田郡は僅かに九反に過きず

桑園の收穫皆無に歸したる地は三河南部の地方に最も多く即ち渥美郡にては千八百九十町三反にして之に次ぐは幡豆郡の千三百三十四町八反額田郡の七百九十二町四反知多部の五百二町西春日井郡の二百二十四町九反愛知郡の百十八町一反海西郡の四十五町八反海東郡の廿六町一反とし尾張北部並に三河山間にては被害輕少なりき

野菜及び果實の收穫皆無は愛知郡の二百三町一反最大にして知多郡の八十三町八反海東郡の六十三町九反渥美郡の五十三町七反幡豆郡の四十五町海西郡の三十二

町八反にして西春井郡額田郡名古屋市西加茂郡の十町乃至二十町にして北設樂郡にては二町を見たるに止まりたり

尙ほ五割以上減收に付て見るに米作にては海東郡の七百七十五町四反碧海郡の七百六十町知多郡の七百十二町八反丹羽郡の三百八十五町七反海西郡の三百五十七町五反渥美郡の二百十一町八反西春日井郡の百八十四町五反幡豆郡の百六十一町三反愛知郡の百一町九反名古屋市の九十町額田郡の五十八町五反葉栗郡の三十五町なり

桑園五割以上減收は西加茂郡の千三百三十五町五反實飯郡の七百五十四町渥美郡の五百八十五町九反東春日井郡の三百六十五町八反丹羽郡の三百三十町北設樂郡の百町知多郡の九十五町六反額田郡の八十一町八反海東郡の五十一町八反にして豐橋市西春日井郡東加茂郡に十町以下を見たり

野菜及び果實の五割以上減收は愛知郡の二百七十八町六反海東郡の百六十五町六反東春日井郡の百四十町六反碧海郡の百三十八町西春日井郡の百十七町二反にして幡豆郡渥美郡海西郡八名郡額田郡中島郡北設樂郡南設樂郡丹羽郡東加茂郡には十五町乃至六十町にして葉栗郡西加茂郡は漸く二町に過ぎざりき

大正元年九月廿三日 暴風雨農作物被害調査表

（郡市役所ノ調査ニ依ル）

郡市別 / 被害別	名古屋	愛知	東春日井	西春日井	丹羽	葉栗	中島	海東	海西	知多	尾張計
収穫皆無 被害面積	二、六一四反	四、九二五反	反	二、四八九反	反	反	反	六、六六四反	四、五四七反	七、七〇四反	二八、九四三反
収穫皆無 見積價額	八二、一〇七円	九〇、二五三円	円	一四、二四六円	円	円	円	二七二、六九一円	一〇二、四九五円	一〇、一八六円	六六二、九七八円
五割以上減収 被害面積	九〇〇	四、三一三	五、〇六四	三、〇八七	七、三六七	三七〇	三五八	九、九二八	四、〇八六	一〇、五三九	七九三、九四三
五割以上減収 見積價額	二七、三〇〇	四八、五八八	九、〇六五	五八、〇九二	七四、五六一	六、五三二	三、八七一	二〇一、二九一	七一、九六二	一九二、二五三	七九三、二二一
三割以上減収 被害面積		一三、六四三	一一、九四五	一五、七九五	二〇、一二二	一七、七一五	七七、四一五	五八、四五二	四四、九九五	七、五四八	四四、二七八
三割以上減収 見積價額		一六三、一二〇	八〇、七五二	二二五、九〇〇	二五八、六四五	一〇四、九八二	七二三、八七七	七一六、三四三	一一四、一三二	二五九、九五一	一七〇、二五八
三割以下減収 被害面積	三、二五〇	六九、一五九	五七、三〇三	三〇、三二六	四五、四六一	一七、七一五	二五、九三六	二五、〇五六	三六、〇九七	四九一、九一二	八三、六三五
三割以下減収 見積價額	五二、五六二	三四〇、二二七	三八一、五五四	二七六、八五八	四〇二、三三六	一〇四、九八二	一一六、三八〇	二三一、二五三	二五九、九五一	四九一、九一二	三九三、九三八
合計 被害面積	六、七六四	九二、〇四〇	七四、三一二	一四、二四六	七二、九五〇	三七〇	三、八七一	九、九二八	八六、六四三	五二、二七八	一一三、七六六
合計 見積價額	一六一、九六九	六四二、一八八	四七一、三七一	五七五、〇九六	七三五、五六二	一八八、九二九	八四四、一二八	一、五七八	四七、一二一	五四八、六四〇	九五五、六〇九

大正元年九月廿三日 暴風雨農作物被害調査表

（郡市役所ノ調査ニ依ル）

郡市別 / 被害別	豐橋	碧海	幡豆	額田	西加茂	東加茂	北設樂	南設樂	寶飯	渥美	八名	三河計	合計
収穫皆無 被害面積	反	一、五八七反	一四、二四八反	八、一〇二反	一〇〇反	反	二〇反	反	反	二〇、二二一反	反	四四、二七八反	七三、一二一反
収穫皆無 見積價格	円	二九、四八四円	八五、九一〇円	一八、四〇五円	四二〇円	円	一、五〇〇円	円	円	一二〇、八四五円	円	二五六、五六三円	九一九、五四一円
五割以上減収 被害面積	一〇〇	八、九八〇	二、二二一	一、八四七	一、三二七三	一七八	一、二七八	二五〇	七、五四〇	八、五四七	四六〇	四四、七七四	九〇、七八六
五割以上減収 見積價格	一〇〇	一三九、九四〇	三六、二五〇	一六、二八〇	六六、八一二	一、二二八	四、一一一	六〇〇	四二、七八〇	四七、四九一	二、〇〇六	三五七、五九八	一一五一、一二二
三割以上減収 被害面積	八五	二八、四三〇	七、一八五	三、三六二	一、四三一	六一五	六七〇	五、四七〇		九、一二二	二一四	五六、五八四	三〇五〇、一八七
三割以上減収 見積價格	三三〇	二六二、二三二	二四、八五二	二〇、一〇二	一四、一五五	四、四四八	一、九二五	一〇、九四〇		七九、二三六	一、三二六	五一九、六四五	三〇五〇、一八七
三割以下減収 被害面積	四、九四一	一二、九八五〇	四三、二三八	四七、三九八	二四、八七〇	三九、三七六	一四、八七〇	八三七	一六、四四三	四八、七一八	四六、四〇九	二四、四四八	八二〇、四六六
三割以下減収 見積價格	七、二六九	六八六、七八四	四九〇、八七六	一九六、九〇九	四四、九一三	六七、九〇八	五、四九九	四〇、四二〇	七九、八一四	一九二、八八八	四六、二二八	一八五九、五七四	四五一七、六〇九
合計 被害面積	五、一二六	一六八、八四七	六六、八九二	六〇、七〇九	五四、二八〇	二五、六六三	二、八〇五	二二、一六三	五六、二五八	八四、二九九	二五、一二二	五七二、一六四	一二二、一六三
合計 見積價格	七、六九九	一一八、四四〇	七三七、八八八	二五一、六九四	一二六、四一〇	七三、五八四	一三、〇三五	五一、九六〇	一二二、五九四	四四〇、四六〇	四九、六一六	二九九三、三八〇	九六三八、四五〇

○大正元年九月廿三日暴風雨農作物被害調査表

（米作ノ部）

郡市別 / 被害別	名古屋	愛知	東春日井	西春日井	丹羽	葉栗	中島	海東	海西	知多	尼張計
收穫皆無 被害面積	二、四六六反	一、七一三反	反	反	反	反	反	反	三、七六一反	一、八四六反	一五、五七四反
收穫皆無 見積價額	七六、一九六円	五七、四八五円	円	円	円	円	円	二六〇、〇四二円	九七、一二〇円	七四、七七三円	五六五、五九七円
五割以上減收 被害面積	九〇〇	一、〇一九	—	一、八四五	三、八五七	三五〇	—	七、七五四	三、五七五	七、一二八	二六、四二八
五割以上減收 見積價額	二七、三〇〇	二二、四四五	—	四〇、〇七五	六、三三一	六、一二二二	—	二六六、三三八	六六、七七五	一六五、〇四七	六五七、五七二
三割以上減收 被害面積	—	一、三〇三	六、一六九	一、二、七六一	一、二六、八八	六、一二〇五	五七、一〇八	四三、五三八	六、七三七	一、一、二九三	一七〇、九〇一
三割以上減收 見積價額	—	一五五、二九五	六七、四五四	一九六、六四七	一七〇、八一八	七七、四一五	七一三、九一六	六九三、二六七	一〇七、〇八五	一六四、九八九	二三四六、八八六
三割以下減收 被害面積	三、二五〇	六四、三七九	五七、一二六	二八、七八七	二、〇一三	一、九六四	六、八四六	二一、一八	三五、〇三六	七九、三二四	三三七、九五六
三割以下減收 見積價額	五二、五六二	三二、七、二五〇	二七九、八八五	二五八、五五九	三〇九、九〇一	八〇、九四二	二八、二〇六	二一七、一七九	二五二、二一二	四六三、八八六	二三七、〇九六
合計 被害面積	六、六一五	八〇、一三七	六三、二九五	四三、三九三	一七〇、九〇一	一七、五一九	六三、九五四	八〇、八七一	四九、一〇九	九九、五九一	五五四、〇五四
合計 見積價額	一五六、〇五八	五六二、四五五	四四七、三四九	四九五、二六一	五四四、〇八〇	一六四、五八九	七四二、一二二	一四三六、八二六	五二三、一九二	八六八、六九五	五九四〇、六四七

○大正元年九月廿三日暴風雨農作物被害調査表

（米作ノ部）

郡市別 / 被害別	豐橋	碧海	幡豆	額田	西加茂	東加茂	北設樂	南設樂	寶飯	渥美	八名	三河計	合計
收穫皆無 被害面積	反	一、五八七反	四五〇反	七反	反	反	反	反	反	七八一反	反	二、八二五反	一八、三七四反
收穫皆無 見積價額	円	二九、四八四円	二二、五〇〇円	一五二円	円	円	円	円	円	二五、四一九円	円	七七、五五五円	六四三、一五一円
五割以上減收 被害面積	—	七、六〇〇	一、六一三	五八五	—	—	—	—	—	二、一一八	—	一一、九一六	三八、三四四
五割以上減收 見積價額	—	一三二、三三六	三〇、〇〇〇	九、五一五	—	—	—	—	—	三三、八九四	—	二〇四、七四五	八六二、三一九
三割以上減收 被害面積	—	一四、四三〇	六、七九一	九六七	四一〇	一二六	一	—	—	六、七八七	—	二九、五一二	二〇〇、〇四一
三割以上減收 見積價額	—	二〇六、二三二	二二〇、六九二	八、〇七八	四、八六〇	一、七二三	三六	—	—	七五、六八三	—	四一七、三〇四	二七四、一九〇
三割以下減收 被害面積	四、五二五	一一三、九一〇	四三、一三八	四四、二七〇	三九、三五八	二〇、六九九	一一六	一五、四二〇	三二、五七〇	四、一九〇	三七三、七一〇	七一、一二四六	七一、一二四六
三割以下減收 見積價額	五、六四二	六四五、五五二	四九〇、一一六	一八八、一〇一	四四四、五八八	六五、二五六	四、二六七	三九、一二〇	五〇、三七六	一八三、八七九	三〇、八七〇	一七四七、七六七	四一八、三五七
合計 被害面積	四、五二五	一一三、九一〇	四三、一三八	四四、二七〇	三九、三五八	二〇、六九九	一一六	一五、四二〇	三二、五七〇	四一、五〇四	三七三、七一〇	七一、一二四六	七一、一二四六
合計 見積價額	五、六四二	一〇一三、六〇四	六六三、三〇八	二〇五、八四六	四九、四四八	六六、九七九	四、三〇三	三九、一二〇	五〇、三七六	一七、八七五	三〇、八七〇	二四四七、三七一	八三八、〇一八

○大正元年九月廿三日暴風雨農作物被害調査表

（桑園ノ部）

郡市別 / 被害別	収穫皆無 被害面積	収穫皆無 見積價額	五割以上減収 被害面積	五割以上減収 見積價額	三割以上減収 被害面積	三割以上減収 見積價額	三割以下減収 被害面積	三割以下減収 見積價額	合計 被害面積	合計 見積價額
	反	円	反	円	反	円	反	円	反	円
愛知	一、一八一	一〇、六二八	五〇八	二、八四四	五	二〇	七四二		二、二四四	一四、二三四
東春日井	反	円	三、六五八	三、六五八	三、三六六	二、三五六			七、〇二四	六、〇一四
西春日井	二、二四九	六、七三一	七〇	七〇〇	一、五八九	九、一三〇	八、〇二五	八五	三、九九三	二四、五八六
丹羽	反	円	三、三〇〇	九、七〇〇	二、七二〇	六六、五三六	三七、一八九	一〇、七四八	一六、七六八	一三、四二五
葉栗	反	円					一五、七四一	五、四二四	五四二四	一五、七四一
中島	反	円			五〇〇	五、二五〇	二一、六三三	七、二一〇	七、七一〇	二六、八八三
海東	二六一	二、五二七	五一八	五、四四〇	六一	一、〇九八			八四〇	九、〇六五
海西	四五八	一、六三〇			二	二	二	三	四六三	一、六三四
知多	五、〇二〇	一九、二二〇	九五六	八、七七四	二〇〇	一、五〇〇	四、八二五	九四〇	七、一一六	三四、三二九
尾張計	九、一六九	四〇、七三六	九、〇一〇	三一、一一六	八、四四三	八五、八九二	八八、一五七	二四、九六〇	五一、五八二	二四五、九〇一

○大正元年九月廿三日暴風雨農作物被害調査表

（桑園ノ部）

郡市別 / 被害別	収穫皆無 被害面積	収穫皆無 見積價額	五割以上減収 被害面積	五割以上減収 見積價額	三割以上減収 被害面積	三割以上減収 見積價額	三割以下減収 被害面積	三割以下減収 見積價額	合計 被害面積	合計 見積價額
	反	円	反	円	反	円	反	円	反	円
豐橋	反	円		一〇〇					一〇〇	一〇〇
碧海	反	円			一四、〇〇〇	五六、〇〇〇				一四、〇〇〇
幡豆	一三、三四八	五九、五六〇								一三、三四八
額田	七、九二四	一七、三九四		八一八	一、五四七	六、八五〇		五、五四八	二、二六〇	一二、五四九
西加茂	反	円		一三、三五五						一三、三五五
東加茂	反	円		二〇	二五	八〇		九三四	二、四五〇	二、四九五
北設樂	反	円		一、〇〇〇	一六九	二三〇		四一五	二〇五	一、四七四
南設樂	反	円			五、四七〇	一〇、九四〇				五、四七〇
寶飯	反	円		七、五四〇			一四、八五〇	二八、五一〇		二二、三九〇
渥美	一八、九〇三	九四、四八六		五、八五九	一、三一六	九二七	一、六八五	四、六		二七、
八[illegible]	反	円								
合計	反									

○大正元年九月廿三日暴風雨農作物被害調査表

（野菜及ヒ果實ノ部）

郡市別 / 被害別	名古屋	愛知	東春日井	西春日井	丹羽	葉栗	中島	海東
收穫皆無 被害面積	一四九反	二〇三一反	反	二四〇反	反	反	反	六三九反
收穫皆無 見積價額	五、九一一円	二二、一六〇円	円	七、五一五円	円	円	円	一〇、一二二円
五割以上減收 被害面積	—	二、七八六	一、四〇六	一、一七二	二一〇	二〇	三五八	一、六五六
五割以上減收 見積價額	—	二三、二九九	五、四〇七	一、七三一七	一、五〇〇	三〇〇	三、八七一	二九、五一三
三割以上減收 被害面積	—	六〇八	二、四一〇	一、四四五	三、七一四	九四四	一、三九六	一四、〇七四
三割以上減收 見積價額	—	七、八〇五	一〇、九四二	二〇、一三三	二一、二九一	四、七一一	二一、九七八	七、
三割以下減收 被害面積	—	四、二三四	一七七	一、四五四	六、七〇〇	一、三二七	一一、八八〇	一、一四一
三割以下減收 見積價額	—	一二、二三五	一、六五九	一〇、二七四	五五、二六六	八、二九九	六六、五四一	一四〇七四
合計 被害面積	一四九	九、六五九	三、九九三	四、三一一	一〇、六二四	一、三四七	一三、〇八二	四、九三二
合計 見積價額	五、九一一	六五、四九九	一八、〇〇八	五五、二二九	七八、〇五七	八、五九九	七五、一二三	七五、六八七
收穫皆無 被害面積	反	尺	尺	尺	尺	尺	尺	五三七尺
收穫皆無 見積價額	円	円	円	八五八円	四二〇円	円	円	九四〇円
五割以上減收 被害面積	—	一、三八〇	六〇八	四四四	一八	一五八	二七八	五七〇
五割以上減收 見積價額	—	七、六〇四	六、二五〇	三、八六一	三七	一、一二八	二、七五一	一、〇七八
三割以上減收 被害面積	八五	—	三九四	八四八	一、〇二一	四六四	五〇〇	一、〇一九
三割以上減收 見積價額	三三〇	—	四、一六〇	五、一七三	九、三九五	二、六四五	一、六五九	二、六二六
三割以下減收 被害面積	四一六	一五、九四〇	一〇〇	八六八	一八	一、七二一	四一六	一、〇二三
三割以下減收 見積價額	一、六二七	四、一二三	七六〇	三、二六〇	三三五	一、七一八	八一七	一、三〇〇
計 被害面積	五〇一	一七、三二〇	一、五五一	二、三三一	一、一五七	二、三四三	一、二一四	一、二七三
計 見積價額	一、九五七	四八、八三六	一五、〇二〇	一三、一五二	一〇、一八七	五、四九一	六、七二七	一、九〇〇

14,6二
1801

○大正元年九月廿三日暴風雨農作物被害調査表

（野菜及ビ果實ノ部）

郡市別 / 被害別	豐橋	碧海	幡豆	額田	西加茂	東加茂	北設樂	南設樂	寶飯	渥美	八
收穫皆無 被害面積	反	尺	四五〇尺	一七一反	一〇〇尺	反	二〇尺	反	尺	五三七尺	
收穫皆無 見積價額	円	円	三、八五〇円	八五八円	四二〇円	円	一、五〇〇円	円	円	九四〇円	
五割以上減收 被害面積	—	一、三八〇	六〇八	四四四	一八	一五八	二七八	二五〇	—	五七〇	
五割以上減收 見積價額	—	七、六〇四	六、二五〇	三、八六一	三七	一、一二八	二、七五一	六〇〇	—	一、〇七八	
三割以上減收 被害面積	八五	—	三九四	八四八	一、〇二一	四六四	五〇〇	—	—	一、〇一九	
三割以上減收 見積價額	三三〇	—	四、一六〇	五、一七三	九、三九五	二、六四五	一、六五九	—	—	二、六二六	
三割以下減收 被害面積	四一六	一五、九四〇	一〇〇	八六八	一八	一、七二一	四一六	一、〇二三	一、二九八	三、二一	
三割以下減收 見積價額	一、六二七	四、一二三	七六〇	三、二六〇	三三五	一、七一八	八一七	一、三〇〇	九二八	四、	
計 被害面積	五〇一	一七、三二〇	一、五五一	二、三三一	一、一五七	二、三四三	一、二一四	一、二七三	一、二九八		
計 見積價額	一、九五七	四八、八三六	一五、〇二〇	一三、一五二	一〇、一八七	五、四九一	六、七二七	一、九〇〇	九二八		

10-117

大正元年十月十八日印刷
大正元年十月十九日發行

發行所　名古屋市東區南武平町二丁目
愛知縣測候

發行者　名古屋市東區南武平町二丁目
愛知縣測候

發賣兼印刷者　名古屋市中區榮町六丁目十一番地
英比貞造

（明治廿七年九月十二日第三種郵便物認可）
（氣象報臨時增刊　毎月廿五日一回發行）

氣象報臨時增刊　小口壹枚定價七厘

終